

令和4年度
北秋田市教育委員会
点検・評価報告書

令和5年10月
北秋田市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

点検及び評価の対象年度 : 令和4年度

<構成内容>

1	点検・評価の趣旨等	P 1
	(1) 点検・評価の趣旨	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の方法	
	(4) 学識経験者の知見の活用	
	(5) 報告書の作成経緯	
	(6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿	
2	教育委員会の会議開催状況	P 3
3	教育委員会の会議審議状況	P 3
	○令和4年度 教育委員会審議案件一覧	
	(1) 令和4年度 附議案件	
	(2) 令和4年度 承認案件	
	(3) 令和4年度 報告案件	
	(4) 令和4年度 その他案件	
4	総合教育会議開催状況	P 6
	○令和4年度 総合教育会議審議案件一覧	
	(1) 令和4年度 審議案件	
5	教育事務の点検評価書【総合点検・評価】	P 7
6	点検評価の基本的な考え方について	P 8
7	教育事務の点検評価書【総合点検・評価】	P 9
8	主要事務事業点検・評価票	P 1 0
	【点検・評価対象事務事業一覧】	
	【個別点検・評価票】	

1 点検・評価の趣旨等

(1) 点検・評価の趣旨

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、令和4年度の教育委員会事務の点検及び評価を行い、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

(2) 点検・評価の対象

本報告書の点検・評価は、令和4年度の事務・取組を対象として実施しています。
また、学校教育や社会教育に関する事など、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条で教育委員会の職務権限とされ、本市教育委員会が所管するすべての事務のうち、北秋田市教育大綱の構成に基づいて重点施策の実績について点検・評価を行うものとしています。

(3) 点検・評価の方法

北秋田市教育大綱（R3～R7）の基本的な方針・目標を達成するための市の取組（主要施策）について、令和4年度中に実施した事業から43事務事業を選定し、内部評価を実施しました。

(4) 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、客観性を確保するため、学識経験者2名を評価委員に委嘱し、個別に意見をいただきました。

◎点検・評価について意見を徴取した学識経験者

北秋田市教育委員会点検評価委員 出川 幸三 氏

北秋田市教育委員会点検評価委員 佐藤 洋子 氏

(5) 報告書の作成経緯

報告書の作成は次のように行いました。

- 6月30日 教育委員会6月定例会で、令和4年度点検・評価報告書（案）説明
- 7月20日 教育委員会7月定例会で、北秋田市教育委員会点検評価委員選任
教育委員会7月定例会で、令和4年度点検・評価報告書（案）審議
- 10月5日 点検評価会議を開催し、点検評価委員から意見聴取
- 10月26日 教育委員会10月定例会で、令和4年度点検・評価について議決 → 公表

(6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿

(令和5年3月31日現在)

職名	氏名	委員任期
教育長	佐藤昭洋	平成29年5月1日 ～令和5年4月30日
委員 (教育長職務代理者)	佐藤正俊	平成20年5月14日 ～令和6年5月13日 (平成23年5月14日 ～令和6年5月13日)
委員	佐藤英樹	令和元年5月14日 ～令和5年5月13日
委員	藤本基子	平成30年5月14日 ～令和8年5月13日
委員	蒔苗隆	平成30年10月10日 ～令和7年5月13日

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の会議開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回の「教育委員会定例会」と、状況に応じた「教育委員会臨時会」を開催しています。令和4年度は、合計で12回開催しました。

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・0回

No	開催日	案件数				所用時間	出席委員数	備考
		議決	承認	報告	その他			
1	R4. 4. 28	3	1		2	100分	4	
2	R4. 5. 30	4	1		2	98分	4	
3	R4. 6. 30	1	2		2	128分	4	
4	R4. 7. 28	5		3	2	163分	4	
5	R4. 8. 25	1			2	88分	4	
6	R4. 9. 29	1		1	2	86分	4	
7	R4. 10. 27	2			2	88分	4	
8	R4. 11. 24	1			2	82分	4	
9	R4. 12. 22	1			2	123分	4	
10	R5. 1. 26	1			2	83分	3	
11	R5. 2. 28	10			2	227分	4	
12	R5. 3. 23	15	1	1	2	154分	4	
	計	45	5	5	24	1420分	47	

※出席委員数に教育長は含みません。

3 教育委員会の会議審議状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第25条及び北秋田市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（平成17年教育委員会規則第6号）第2条の規定に基づき、令和4年度は合計で45件について審議しました。

<令和4年度 教育委員会審議案件一覧>

- (1) 令和4年度 附議案件

議案番号	件名	提出年月日
R4年22	北秋田市立学校児童生徒の災害共済給付に係る共済掛金の徴収に関する規則の制定について	R4. 4. 28
23	北秋田市立学校児童生徒の災害共済給付に係る保護者から徴収する共済掛金の補助に関する要綱の制定について	R4. 4. 28
24	北秋田市体育協会補助金交付要領の一部改正について	R4. 4. 28
25	北秋田市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について	R4. 5. 30
26	北秋田市自費検査費用補助金交付要領の制定について	R4. 5. 30
27	北秋田市小中学校修学旅行キャンセル料等補助金交付要領の一部改正について	R4. 5. 30
28	北秋田市公民館館長の任命について	R4. 5. 30
29	北秋田市モバイルWi-Fiルーター貸出要綱の制定について	R4. 6. 30

30	令和4年度北秋田市一般会計補正予算（第3号）の北秋田市議会提出について	R4. 7. 28
31	北秋田市立小中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R4. 7. 28
32	北秋田市教育委員会点検評価委員の委嘱について	R4. 7. 28
33	令和3年度北秋田市教育委員会点検・評価報告書について	R4. 7. 28
34	北秋田市教育委員会事務局職員に対する監督上の措置について	R4. 7. 28
35	令和4年度北秋田市一般会計補正予算（第5号）の北秋田市議会提出について	R4. 8. 25
36	北秋田市公民館長の任命について	R4. 9. 29
37	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	R4. 10. 27
38	令和4年度全国学力・学習状況調査の結果分析の公表について	R4. 10. 27
39	令和4年度北秋田市一般会計補正予算（第8号）の北秋田市議会提出について	R4. 11. 24
40	公文書の開示について	R4. 12. 22
R5年1	北秋田市指定文化財の指定について	R5. 1. 26
2	北秋田市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	R5. 2. 28
3	北秋田市招致外国青年の任用に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R5. 2. 28
4	義務教育学校の設置等に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について	R5. 2. 28
5	義務教育学校の設置等に伴う関係要綱等の整備に関する要綱等の制定について	R5. 2. 28
6	義務教育学校の設置等に伴う関係要領等の整備等に関する要領等の制定について	R5. 2. 28
7	令和4年度北秋田市一般会計補正予算（第10号）の北秋田市議会提出について	R5. 2. 28
8	令和5年度北秋田市一般会計予算の北秋田市議会提出について	R5. 2. 28
9	北秋田市公民館館長の辞職について	R5. 2. 28
10	北秋田市公民館館長の任命について	R5. 2. 28
11	県費負担教職員の内申について	R5. 2. 28
12	北秋田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について	R5. 3. 23
13	北秋田市教育委員会個人情報の保護に関する法律等施行規則の制定について	R5. 3. 23
14	北秋田市学校部活動及び新たな地域クラブ活動検討委員会設置要綱の制定について	R5. 3. 23
15	北秋田市放課後児童クラブ管理規則を廃止する規則の制定について	R5. 3. 23
16	北秋田市社会教育委員の委嘱について	R5. 3. 23

17	北秋田市公民館運営審議会委員の委嘱について	R5. 3. 23
18	北秋田市青少年問題協議会委員の委嘱について	R5. 3. 23
19	北秋田市生涯学習奨励員の委嘱について	R5. 3. 23
20	北秋田市文化財保護審議会委員の委嘱について	R5. 3. 23
21	北秋田市文化会館運営委員会委員の委嘱について	R5. 3. 23
22	北秋田市図書館協議会委員の任命について	R5. 3. 23
23	北秋田市浜辺の歌音楽館運営審議会委員の委嘱について	R5. 3. 23
24	北秋田市スポーツ推進審議会委員の任命について	R5. 3. 23
25	北秋田市スポーツ推進委員の委嘱について	R5. 3. 23
26	北秋田市教育委員会事務局職員に対する監督上の措置について	R5. 3. 23

※議案番号は、暦年による一連番号を記載。

(2) 令和4年度 承認案件

承認番号	件 名	提出年月日
R4年3	専決処分の承認を求めることについて（専決第4号 令和3年度北秋田市一般会計補正予算（第12号）の北秋田市議会提出について）	R4. 4. 28
4	専決処分の承認を求めることについて（専決第5号 令和4年度北秋田市一般会計補正予算（第1号）の北秋田市議会提出について）	R4. 5. 30
5	専決処分の承認を求めることについて（専決第6号 北秋田市公民館長の辞職について）	R4. 6. 30
6	専決処分の承認を求めることについて（専決第7号 令和4年度北秋田市一般会計補正予算（第2号）の北秋田市議会提出について）	R4. 6. 30
R5年1	専決処分の承認を求めることについて（専決第1号 北秋田市教育委員会事務局課長の任免について）	R5. 3. 23

※承認番号は、暦年による一連番号を記載。

(3) 令和4年度 報告案件

番号	件 名	提出年月日
R4年2	専決処理の報告について（専決第8号 公文書の開示について）	R4. 7. 28
3	専決処理の報告について（専決第9号 公文書の開示について）	R4. 7. 28
4	専決処理の報告について（専決第10号 公文書の開示について）	R4. 7. 28
5	専決処理の報告について（専決第11号 北秋田市教育委員会事務局職員の任免について）	R4. 9. 29
R5年1	専決処理の報告について（専決第2号 北秋田市教育委員会事務局職員の任免について）	R5. 3. 23

(4) 令和4年度 その他案件

番号	件名	提出年月日
1	教育長報告	R4. 4. 28
2	各課長所管報告	R4. 4. 28
3	教育長報告	R4. 5. 30
4	各課長所管報告	R4. 5. 30
5	教育長報告	R4. 6. 30
6	各課長所管報告	R4. 6. 30
7	教育長報告	R4. 7. 28
8	各課長所管報告	R4. 7. 28
9	教育長報告	R4. 8. 25
10	各課長所管報告	R4. 8. 25
11	教育長報告	R4. 9. 29
12	各課長所管報告	R4. 9. 29
13	教育長報告	R4. 10. 27
14	各課長所管報告	R4. 10. 27
15	教育長報告	R4. 11. 24
16	各課長所管報告	R4. 11. 24
17	教育長報告	R4. 12. 22
18	各課長所管報告	R4. 12. 22
19	教育長報告	R5. 1. 26
20	各課長所管報告	R5. 1. 26
21	教育長報告	R5. 2. 28
22	各課長所管報告	R5. 2. 28
23	教育長報告	R5. 3. 23
24	各課長所管報告	R5. 3. 23

4 総合教育会議開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）の施行により、平成27年度から「総合教育会議」を設置しています。

総合教育会議では、市長と教育委員会が協議を行い、教育に関する総合的な施策の大綱を策定する他、教育の条件整備など重点的に構すべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置等について協議・調整を行います。令和4年度は2回開催しました。

<令和4年度 総合教育会議審議案件一覧>

(1) 令和4年度 審議案件

番号	件名	年月日
1	・北秋田市教育大綱の一部変更について ・令和4年度主な教育施策について	R4. 5. 30
2	・令和4年度主な教育施策の実施状況（上半期）について	R4. 10. 27

5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

令和4年度における教育委員会の当初予算は17億7,112万1千円でありましたが、1億2,465万円の増額補正があり、予算合計が18億9,577万1千円となっています。これは、前年度予算と比較して4億5,981万1千円減少、一般会計に占める教育費の割合は約6.5%で、前年度に比べ約1.2%減少しています。

会議については、教育委員会を14回、総合教育会議を2回開催しました。総合教育会議では、市長と教育委員が一堂に会し、北秋田市における「学校教育」「社会教育」「スポーツ」という教育全般にわたり、教育理念や方針、施策や事業等について有意義な協議、意見交換が行われました。

令和4年度における教育委員会の主要施策についての個別点検・評価について、次頁以降に示している43事業を対象として、「アウトカム型」「アウトプット型」「ロードマップ型」「例年実施型」「緊急対策型」の5つの類型で53の評価指標を設定しました。

目標値を設定した「アウトカム型」「アウトプット型」は29指標の内、小・中学校校務支援システム導入事業や縄文まつり参加者数、縄文館入館者数、文化会館・浜辺の歌音楽館利用者数など8指標で目標値を達成したほか、5指標で一部達成し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により16指標が達成できませんでした。

事業進捗を年次で示した「ロードマップ型」は4指標で、計画どおり進捗しています。

目標値の設定が馴染まない「例年実施型」が19指標で、「緊急対策型」は新型コロナウイルス感染対策事業で、緊急事案に対して迅速な対応をしました。

総じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための配慮をしながら、各事業、創意工夫をしての講座やイベントの実施となりました。コロナ禍以前の評価指数には及びませんでした。3年振りの縄文まつりについては、世界文化遺産登録1周年にあたり観光団体等と連携し、新しい体験を提供することができ、多くの参加者がありました。また民俗芸能大会についても、出演団体は少なかったものの、久しぶりのお囃子や太鼓に合わせ舞や踊りを披露する姿に多くの拍手が送られ、多くの交流者数、参加者があり目標値を達成することができました。

点検評価を終え、学識経験者からは次のような御意見をいただきました。

「各事業の企画や運営において、様々な工夫や改善、活動内容の拡大等が図られている。その真摯な取りくみと熱意に敬意を表するとともに実施状況には、充実した内容が随所に見られ、高く評価できる。コロナ禍の影響を受ける中で、対応に難儀しながら培われた力量は、今後の実践にも大きく反映されるものと思われる。浮かび上がった課題については、分析と解決の方策を十分探りながら適切な対応に努めていただきたい。」

「コロナ禍による影響を大きく受けた事業が多かったものの、それを乗り越えて再開できていることは、よい方向へ向かっていると思われる。一つ一つの事業が着実に実践されている印象をもった。それぞれの課題を明確にして解決に努めるとともに新たな施策も進めるよう期待する。」

いただいた御意見を踏まえ、より効果的な教育行政の推進に努めて参ります。

令和5年10月

北秋田市教育委員会

6 点検評価の基本的な考え方について

本市では、令和3年5月に市の教育行政の根本となる方針を定める「北秋田市教育大綱」を策定し、令和3年度から令和7年度までの5年間の施策の方針（目標）を示しました。

教育大綱では、基本的な方針を「心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実」、「ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり」、「スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田」の3つに分類するとともに、各方針の目標を以下のとおり示しております。

令和4年度分の施策の実績については、教育大綱の基本的な方針に基づき評価することとし、この報告書では、3つの基本的な構成ごとに、各施策の実績について点検・評価を行うものとします。

〔北秋田市教育大綱の基本的な方針と目標〕

心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（生涯学習）
① 次代を切り拓くための資質・能力の育成 ② 豊かな心と健やかな体の育成 ③ ふるさとを愛し、ふるさとを支えようとする子どもの育成	① 協働による持続可能な地域づくり ② 共に学びあえる生涯学習の推進 ③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携
ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（文化）	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田
④ 心を豊かにする芸術文化の振興 ⑤ 文化財保存・継承の推進	① スポーツ環境の充実 ② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 ③ 競技スポーツの向上

計画の進行管理にあたっては、評価指標を設定することで効果的な促進を図ることとしており、各事業の内容や期待される効果などに応じて、次の5つの類型の評価指標のいずれかを設定しました。

なお、評価指標については、各事業の達成度を評価する際の参考指標という位置付けとし、評価については各事業の進捗状況などを踏まえ総合的に行いました。

〔評価指標についての基本的な考え方〕

1 アウトカム型 （目標値設定あり）	事業を通じて直接的な効果や理解度などが測定できるもの 【例】 学力検査結果、利用者アンケート結果
2 アウトプット型 （目標値設定あり）	事業の活動や事業結果が定量的に示せるもの 【例】 入館者数、登録数
3 ロードマップ型 （目標値設定なし）	計画期間内の事業計画が決まっており、事業の進捗が年次で示せるもの 【例】 施設整備事業、タブレット端末整備事業
4 例年実施型 （目標値設定なし）	毎年同じ内容で着実に実施しているもの 【例】 就学援助事業、〇〇活動の支援事業
5 緊急対策型 （目標値設定なし）	緊急的に実施したもの 【例】 感染症緊急対策事業、災害対策事業

7 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

◎凡例

本市教育委員会の事務を、令和3年5月に策定した「北秋田市教育大綱」に基づき、4つの基本的な方針－目標－事業の体系とし、目標及び事業の単位において点検・評価を実施しました。
また、事業の単位において学識経験者から聴取した意見を掲載しました。

◎評価指標の表記について

計画の進行管理にあたっては、評価指標を設定することで効果的な促進を図り、各事業の内容や期待される効果などに応じて、次の5つの類型の評価指標のいずれかを設定することとします。

なお、評価指標については、各事業の達成度を評価する際の参考指標という位置付けとし、評価については各事業の進捗状況などを踏まえ総合的に行うこととします。

①アウトカム型・・・事業を通じて直接的な効果や理解度などが測定できるもの（目標値設定あり）

◆評価指標 **アウトカム** ◆実績

●●と答えた児童生徒の割合
●%

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●%	●%	●%			

②アウトプット型・・・事業の活動や事業結果が定量的に示せるもの（目標値設定あり）

◆評価指標 **アウトプット** ◆実績

●●施設利用者数
●名

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●名	●名	●名			

③ロードマップ型・・・計画期間内の事業計画が決まっており、事業の進捗が年次で示せるもの

◆評価指標及び実績 **ロードマップ**

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●●事業準備		●●事業実施			
●●調査完了					

←事業計画に対する実績(下段)

④例年実施型・・・毎年同じ内容で着実に実施しているもの（目標値設定なし）

◆評価指標及び実績 **例年実施**

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●●件	●●件	●●件			

←事業計画に対する実績

⑤緊急対策型・・・緊急的に実施したもの（目標値設定なし）

◆評価指標及び実績 **緊急対策**

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
		●●件			

←事業計画に対する実績

8 主要事務事業点検・評価票

【点検・評価対象事務事業一覧】

基本的な方針	目標
心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実	①次代を切り拓くための資質・能力の育成 ②豊かな心と健やかな体の育成 ③ふるさとを愛し、ふるさとを支えようとする子どもの育成

No	事務事業名	【総務課】
1	あきたリフレッシュ学園・教育留学事業	例年実施/アウトプット
2	義務教育学校阿仁学園統合改修事業	ロードマップ
3	学校給食事業	アウトプット

No	事務事業名	【学校教育課】
4	遠距離通学事業	例年実施
5	教育センター事業	アウトカム
6	外国青年招致事業	アウトカム
7	総合学習補助事業	例年実施
8	小・中学校パソコン導入事業（GIGAスクール構想）	ロードマップ
9	学校生活サポート員配置事業	例年実施
10	不登校児童生徒対策事業	例年実施
11	小・中学校校務支援システム導入事業	アウトカム
12	新型コロナウイルス感染症対策事業	緊急対策

基本的な方針	目標
ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（生涯学習）	①協働による持続可能な地域づくり ②共に学びあえる生涯学習の推進 ③子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携

No	事務事業名	【生涯学習課】
13	新成人事業	例年実施
14	日本語教室開催事業	例年実施
15	青少年育成事業	例年実施
16	花いっぱい運動推進事業	例年実施
17	地域学校協働本部事業	アウトプット/アウトカム
18	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業	アウトプット
19	高齢者教育事業	アウトプット/アウトカム
20	公民館講座開設事業	アウトプット/アウトカム
21	公民館管理事業	例年実施
22	放課後児童健全育成事業	例年実施
23	放課後子ども教室推進事業	アウトプット
24	家庭教育支援推進事業	例年実施

基本的な方針	目標
ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり（文化）	④心を豊かにする芸術文化の振興 ⑤文化財保存・継承の推進

No	事務事業名	【生涯学習課】
25	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業	ロードマップ
26	縄文まつり開催事業	アウトプット/アウトカム
27	伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業	アウトプット/アウトカム
28	図書館事業	アウトプット/例年実施
29	文化会館運営事業	アウトプット
30	文化会館自主事業	アウトプット
31	みちのく子供風土記館管理事業	アウトプット/例年実施
32	浜辺の歌音楽館運営事業	アウトプット/例年実施
33	文化祭開催事業	アウトプット
34	文化財保護事業	例年実施
35	民俗芸能大会事業	アウトプット/例年実施
36	方言保存継承事業	ロードマップ

基本的な方針	目標
スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田	①スポーツ環境の充実 ②生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 ③競技スポーツの向上

No	事務事業名	【スポーツ振興課】
37	北秋田市民プール管理運営事業	例年実施
38	薬師山スキー場管理運営事業	例年実施
39	北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業	アウトプット
40	100キロチャレンジマラソン大会補助事業	アウトプット
41	北秋田市スキー大会等補助事業	アウトプット
42	北秋田市スポーツ大会開催補助事業	アウトプット
43	北秋田市スポーツ大会出場費補助事業	アウトプット

1	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				総務課	
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成					
事業名	あきたリフレッシュ学園・教育留学事業				決算額 13,172 千円		
◆事業の目的 あきたリフレッシュ学園 学校や日常生活に悩み、疲れた小・中学生に大自然の中で心と体のリフレッシュを図る場と機会を提供する。 教育留学事業 秋田の探求型授業や体験活動等を目的に来県する教育留学を推進することで、秋田の魅力を全国に発信し、関係・交流人口の増加につなげる。		◆事業概要 あきたリフレッシュ学園 県派遣の社会教育主事と教員OBの指導員が、個々に応じた学習と自然体験をコーディネートし、社会性や協調性を育む。 教育留学事業 県委託事業 県の委託事業であり、留学生が滞在期間や留学内容を自由に選択できる「オーダーメイド」型の留学である。市内の小中学校に通う「学習交流型」とあきたリフレッシュ学園に通う「生活改善型」があり、在籍校の出席扱いとできることから体験、長期滞在、定住とステップアップすることができる。 また、上記の教育留学を推進する事業として「短期チャレンジ留学」を夏と冬の年2回、県外の児童生徒を対象に開催している。(令和3年度以降は市単独事業)					
◆評価指標及び実績 あきたリフレッシュ学園事業		例年実施					
		実績	H30	R1	R2	R3	R4
		実人数	20人	11人	13人	17人	15人
		実人数(市内)	9人	8人	7人	7人	7人
		延べ人数	891人	676人	270人	447人	413人
教育留学事業		アウトプット					
		実績	H30	R1	R2	R3	R4
		実人数	11人	11人	—	—	2人
		延べ人数	1065人	818人	—	—	47人
評価指標		参考	短期留学の参加者数				
長期教育留学を実施した過去の留学生の人数		夏期	33人	19人	—	—	—
11人(過去5年間の平均)以上		冬期	28人	24人	—	16人	14人
		計	61人	43人	—	16人	14人
◆令和4年度の実施状況							
○あきたリフレッシュ学園 体験活動を通して学校復帰を目指す不登校対策のあきたリフレッシュ学園事業では登山、サイクリング、筏下り等の自尊感情を高める活動や、農園活動で収穫の喜びと、家庭に持ち帰ることで、感謝されるなど、自己有用感を高める活動を実施したことで、健康的な生活を取り戻す子もみられた。							
○教育留学 教育留学事業については夏休みを利用して行う短期留学を新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い県教育庁と協議のうえ中止したが、冬休みを利用した短期留学は昨年を引き続き例年に近いかたちで実施することが出来た。また、年間を通して受け入れる長期留学についても不登校傾向にある県外の児童生徒を対象に行う「生活改善型」を3年ぶりに実施し、中学生2名の留学生を受け入れたことにより、関係人口の拡大につなげることができた。							
◆自己評価 あきたリフレッシュ学園事業は、例年実施型として評価指標を設定していない。不登校の子供が社会との接点が必要ならば、将来「ひきこもり」に陥る可能性がある。リフレッシュ学園は社会との大事な接点となっていることから事業の意義は大きい。 教育留学事業は、市内の学校に通う「学習交流型」の受入れを新型コロナウイルス感染症の影響により中止したほか、学童研修センター内で実施する「生活改善型」を2学期以降に開始したため、評価指標を達成できなかったが、長期留学を3年ぶりに実施できたことは学習交流型を含めた事業全体の再開に向け、大きな一歩となった。							
◆今後の方向性 あきたリフレッシュ学園事業は、体験活動を通じて自尊感情や自己有用感を高めるための支援を続ける。 教育留学事業は、県の委託事業を継続して、秋田の魅力発信、関係人口の増加につなげる事業を展開する。							
◆評価委員の意見 リフレッシュ学園では、子どもの社会性や協調性を育む貴重な実践が計画的に継続されており高く評価できる。また、教育留学についても、コロナ禍の中、再開に向けての努力が窺われ、今後の事業推進が期待できる。 それぞれの特徴を生かし、子どもたちに寄り添った活動や支援の継続を期待したい。							

2	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実 目標	総務課									
事業名	義務教育学校阿仁学園統合改修事業		決算額 13,013 千円									
◆事業の目的		◆事業概要										
北秋田市立学校 適正規模・配置再編プランに沿った校舎等の整備充実を図り、施設の耐久性を確保する。		旧阿仁合小学校校舎等を義務教育学校校舎等として整備する。										
◆評価指標及び実績		ロードマップ										
		<table border="1"> <tr> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">統合改修事業</td> </tr> <tr> <td>調査・設計</td> <td>施工</td> <td>外構</td> </tr> </table>		R4	R5	R6	統合改修事業			調査・設計	施工	外構
R4	R5	R6										
統合改修事業												
調査・設計	施工	外構										
◆令和4年度の実施状況												
校舎等のアスベスト調査及び改修工事の実施設計を行った。												
事業の概要			事業費									
業務の内容 ・実施設計業務委託 10,923千円 ・アスベスト事前調査業務委託 2,090千円			13,013 千円									
◆自己評価												
令和4年度の校舎等改修工事に係るアスベスト調査及び実施設計を完了することができた。												
◆今後の方向性												
令和5年度 校舎等改修工事及び遊具更新工事を実施する。 令和6年度のグラウンド排水改良工事、駐車場整備工事、収納庫改築工事の完了をもって本事業は終了する。												
◆評価委員の意見												
計画的に整備が進められており、安全かつ適切な環境の下での教育活動が期待できる。 調査・設計の完了を受けて、今後2年間の事業の確実な進捗と校舎等の整備、充実を図られたい。												

3	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実 方針 目標 ② 豊かな心と健やかな体の育成	総務課																																																																						
事業名	学校給食事業	決算額 296,543 千円																																																																						
◆事業の目的 学校給食の提供	◆事業概要 市内小学校9校、中学校4校への給食提供と比内支援学校たかのす校への給食提供を受託している。																																																																							
◆評価指標及び実績 <table border="1" data-bbox="555 481 1316 694"> <thead> <tr> <th colspan="2">アウトプット</th> <th colspan="5">※食数は1日あたりの食数</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総食数</td> <td>2,233食</td> <td>2,132食</td> <td>2,048食</td> <td>1,969食</td> <td>1,885食</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鷹巣北部</td> <td>931食</td> <td>918食</td> <td>916食</td> <td>879食</td> <td>860食</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鷹巣南部</td> <td>442食</td> <td>414食</td> <td>350食</td> <td>354食</td> <td>312食</td> <td></td> </tr> <tr> <td>もりよし</td> <td>860食</td> <td>800食</td> <td>782食</td> <td>736食</td> <td>713食</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="555 721 1316 824"> <thead> <tr> <th></th> <th>秋田県産</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41品目 秋田県産</td> <td>80%</td> <td>77.9%</td> <td>80.0%</td> <td>81.1%</td> <td>81.6%</td> <td>81.6%</td> </tr> <tr> <td>41品目 北秋田市産</td> <td>25%</td> <td>25.0%</td> <td>22.6%</td> <td>24.8%</td> <td>23.1%</td> <td>21.7%</td> </tr> <tr> <td>15品目 秋田県平均比+3%</td> <td>+3%</td> <td>+2.2%</td> <td>+1.6%</td> <td>+11.6%</td> <td>+13.0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>評価指標 給食食材使用量の地場産率</p> <p>○鷹巣北部学校給食センター 対象:鷹巣中・綴子小・鷹巣小</p> <p>○鷹巣南部学校給食センター 対象:鷹巣東小・清鷹小・比内支援学校たかのす校</p> <p>○もりよし学校給食センター 対象:合川中・合川小・森吉中・米内沢小・前田小・阿仁中・阿仁合小・大阿仁小</p> <p>※R4県平均は公表前のため不明</p>			アウトプット		※食数は1日あたりの食数					実績	H30	R1	R2	R3	R4		総食数	2,233食	2,132食	2,048食	1,969食	1,885食		鷹巣北部	931食	918食	916食	879食	860食		鷹巣南部	442食	414食	350食	354食	312食		もりよし	860食	800食	782食	736食	713食			秋田県産	H30	R1	R2	R3	R4	41品目 秋田県産	80%	77.9%	80.0%	81.1%	81.6%	81.6%	41品目 北秋田市産	25%	25.0%	22.6%	24.8%	23.1%	21.7%	15品目 秋田県平均比+3%	+3%	+2.2%	+1.6%	+11.6%	+13.0%	
アウトプット		※食数は1日あたりの食数																																																																						
実績	H30	R1	R2	R3	R4																																																																			
総食数	2,233食	2,132食	2,048食	1,969食	1,885食																																																																			
鷹巣北部	931食	918食	916食	879食	860食																																																																			
鷹巣南部	442食	414食	350食	354食	312食																																																																			
もりよし	860食	800食	782食	736食	713食																																																																			
	秋田県産	H30	R1	R2	R3	R4																																																																		
41品目 秋田県産	80%	77.9%	80.0%	81.1%	81.6%	81.6%																																																																		
41品目 北秋田市産	25%	25.0%	22.6%	24.8%	23.1%	21.7%																																																																		
15品目 秋田県平均比+3%	+3%	+2.2%	+1.6%	+11.6%	+13.0%																																																																			
◆令和4年度の実施状況 ○学校給食センターの設備整備 鷹巣南部学校給食センター パススルー冷蔵庫購入 600,600円 ○学校給食支援事業 全国的に物価の高騰が続いている中、多くの食材の価格が上昇している状況にあり、児童生徒に必要な栄養を維持した給食を提供する必要があることから、食材価格の高騰分を助成し、保護者の経済的な負担軽減を図った。事業費は、8,468(千円) ○地場産食材の活用 「おいしい北秋田」と題して、地元農家やJA秋田たかのすからの旬な野菜の情報をもとに、市内産の食材をふんだんに取り入れた献立を定期的に提供した。 また、コロナ禍で需要が低迷している比内地鶏について、秋田県農林水産部の「比内地鶏肉の学校給食利用事業(無償)」を活用し、親子丼、比内地鶏カレー及び比内地鶏ラーメン等を提供した。 この他、食育の一環として、地域の特色・特産品を学ぶことを目的とした「統一献立事業」を上小阿仁村と共同して実施した。 ○食物アレルギー対策 児童生徒(新入学児童含む)の保護者と、医師の指示書を基に面談をし、代替・除去または、家庭からの持参対応を確認した。																																																																								
◆自己評価 給食メニューに地場産食材の使用に努めたことで、地場産率(秋田県産)の目標を達成することができた。 給食食材使用量の地場産率について、41品目のうち秋田県産は評価指標80%に対して81.6%であり達成率は102%であったが、令和3年度までの状況を見ると、県平均に対しては10%以上も上回っており、極めて良好な状況であると捉えている。また、北秋田市産は評価指標25%に対して21.7%と達成率は86.8%と達成できていない。																																																																								
◆今後の方向性 安心・安全な学校給食提供のため、日々の衛生管理を徹底する。 地元のJAをはじめとして、農業法人や個別農家への聞き取りを行い、納入に係る課題を整理することで、地元食材の利用拡大につなげる。また、地元農家等と連携を図り、旬な地元食材を利用できる給食献立を検討する。 鷹巣北部学校給食センターは、平成10年3月竣工から25年が経過し老朽化が進んでおり、施設の更新計画を検討する必要があるが、学校統合計画との整合を図り、鷹巣南部学校給食センターとの集約化を検討しなければならない。																																																																								
◆評価委員の意見 保護者の経済的な負担軽減に努力するとともに、様々な工夫を図りながら秋田県産の達成率が県平均を継続して上回っていることは高く評価できる。今後は地元食材の利用拡大と設備の計画的な整備を図られたい。 地場産食材の使用に努め、食材価格の高騰分を助成して保護者の負担軽減を図っていることは大いに評価できる。																																																																								

4	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	遠距離通学事業				決算額 113,523 千円	
◆事業の目的		◆事業概要				
<p>スクールバス等の運行により、遠距離児童生徒の通学の安全と保護者の負担軽減を図り、平等な就学の機会を確保する。また、公共交通機関の利用可能な児童生徒には、定期券を配付することで経済的な軽減を図ることを目的とする。</p>		<p>通学距離が小学生で片道4km中学生で片道6km以上となる児童生徒を対象とし、スクールバスやスクールタクシーを運行し通学を支援。また公共交通機関の利用が可能な児童生徒には定期券を配付。</p>				
◆評価指標及び実績		例年実施				
スクールバス運行事業						
実績						
	H30	R1	R2	R3	R4	
小学校 児童数	1,156人	1,115人	1,075人	1,034人	992人	
中学校 生徒数	668人	624人	602人	567人	572人	
対象小学生	210人	202人	200人	238人	224人	
対象中学生	160人	142人	171人	149人	143人	
対象小学生%	18.2%	18.1%	18.6%	23.0%	22.6%	
対象中学生%	24.0%	22.8%	28.4%	26.3%	25.0%	
遠距離通学費補助事業						
実績						
	H30	R1	R2	R3	R4	
鷹巣南小学校学区	2人	2人	4人	—	—	
前田小学校学区	4人	4人	3人	2人	2人	
◆令和4年度の実施状況						
<p>スクールバス運行事業においては、市有スクールバス12路線、借上スクールバス3路線、スクールタクシー2路線を運行し、対象児童生徒367名の安全な通学に努めた。道路交通法の改正に伴うアルコールチェックの義務化により、令和4年度から市所有のスクールバスの運行及び車両管理を民間事業者に委託している。また、遠距離通学費補助については、前田小学校学区にある根森田線を利用可能な対象児童へバス定期券を補助した。</p>						
◆自己評価						
<p>交通事故等は発生せず、概ね安全安心な運行を行うことができた。今後も運行における安全対策を徹底し、安全安心な運行に努めていく。</p>						
◆今後の方向性						
<p>安全安心な運行を図るため、必要な車両の台数を確保していく。また、民間事業者が有する運行管理や車両管理に関する知見・ノウハウによる安全管理体制を強化するとともに、安全・安心な運行の徹底に努めるよう事業者に指示していく。</p> <p>一方で、学校の統合により車両台数が増えることでバス運転手の確保が課題である。</p>						
◆評価委員の意見						
<p>スクールバスの運行は、児童生徒の安全に関わる極めて重要な業務であり、今後も一層の安全対策に努めたい。</p> <p>安全管理体制を整備し、安全安心な運行が確保されていることを高く評価したい。今後も徹底した安全対策を講じられたい。</p>						

5	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課																																																								
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成																																																												
事業名	教育センター事業				決算額	2,173 千円																																																								
◆事業の目的		◆事業概要																																																												
小・中学校の教職員研修を計画・実践し、北秋田市学校教育ビジョンに掲げる「主体的に学び、新しい時代を創造する子ども」の育成に努めることを目的とする。		教育センターの組織を事業調査部、教職研修部、授業・教科部に分け、その中に各部会を設置し、教職員の研修に取り組む。また、所員発表会の開催や「北秋田の教育」を発行し、教職員の授業力の向上を図る。																																																												
◆評価指標及び実績		アウトカム																																																												
評価指標																																																														
授業研究会に関する教職員アンケート(4段階評価)において、「十分満足」と「概ね満足」の割合の合計が90%以上		<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>98.0%</td> <td>98.3%</td> <td>97.0%</td> <td>96.2%</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>91.0%</td> <td>100.0%</td> <td>99.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>94.5%</td> <td>99.2%</td> <td>98.0%</td> <td>98.1%</td> <td>98.0%</td> </tr> </tbody> </table>					実績	H30	R1	R2	R3	R4	小学校	98.0%	98.3%	97.0%	96.2%	97.1%	中学校	91.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	平均	94.5%	99.2%	98.0%	98.1%	98.0%																																
実績	H30	R1	R2	R3	R4																																																									
小学校	98.0%	98.3%	97.0%	96.2%	97.1%																																																									
中学校	91.0%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%																																																									
平均	94.5%	99.2%	98.0%	98.1%	98.0%																																																									
県学習状況調査(児童生徒質問紙調査)における質問項目「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」について、「あてはまる」の割合が県平均を上回る。		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>市平均(県平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小4</td> <td>+4.8%</td> <td>+5.7%</td> <td>-3.2%</td> <td>-11.8%</td> <td>+2.0%</td> <td>61.1(59.1)</td> </tr> <tr> <td>小5</td> <td>+6.6%</td> <td>-2.8%</td> <td>+6.9%</td> <td>-5.1%</td> <td>-1.7%</td> <td>49.2(50.9)</td> </tr> <tr> <td>小6</td> <td>+3.8%</td> <td>+9.5%</td> <td>-3.6%</td> <td>+7.1%</td> <td>-5.3%</td> <td>42.9(48.2)</td> </tr> <tr> <td>児童平均</td> <td>+5.1%</td> <td>+4.1%</td> <td>±0%</td> <td>-3.2%</td> <td>-1.7%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中1</td> <td>+2.9%</td> <td>+0.3%</td> <td>+6.0%</td> <td>-12.7%</td> <td>+5.8%</td> <td>53.1(47.3)</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>+2.0%</td> <td>+3.5%</td> <td>+3.4%</td> <td>+6.1%</td> <td>-8.2%</td> <td>34.5(42.7)</td> </tr> <tr> <td>生徒平均</td> <td>+2.5%</td> <td>+1.9%</td> <td>+4.7%</td> <td>-3.3%</td> <td>-1.2%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						H30	R1	R2	R3	R4	市平均(県平均)	小4	+4.8%	+5.7%	-3.2%	-11.8%	+2.0%	61.1(59.1)	小5	+6.6%	-2.8%	+6.9%	-5.1%	-1.7%	49.2(50.9)	小6	+3.8%	+9.5%	-3.6%	+7.1%	-5.3%	42.9(48.2)	児童平均	+5.1%	+4.1%	±0%	-3.2%	-1.7%		中1	+2.9%	+0.3%	+6.0%	-12.7%	+5.8%	53.1(47.3)	中2	+2.0%	+3.5%	+3.4%	+6.1%	-8.2%	34.5(42.7)	生徒平均	+2.5%	+1.9%	+4.7%	-3.3%	-1.2%	
	H30	R1	R2	R3	R4	市平均(県平均)																																																								
小4	+4.8%	+5.7%	-3.2%	-11.8%	+2.0%	61.1(59.1)																																																								
小5	+6.6%	-2.8%	+6.9%	-5.1%	-1.7%	49.2(50.9)																																																								
小6	+3.8%	+9.5%	-3.6%	+7.1%	-5.3%	42.9(48.2)																																																								
児童平均	+5.1%	+4.1%	±0%	-3.2%	-1.7%																																																									
中1	+2.9%	+0.3%	+6.0%	-12.7%	+5.8%	53.1(47.3)																																																								
中2	+2.0%	+3.5%	+3.4%	+6.1%	-8.2%	34.5(42.7)																																																								
生徒平均	+2.5%	+1.9%	+4.7%	-3.3%	-1.2%																																																									
◆令和4年度の実施状況																																																														
<p>児童生徒の基礎学力の定着と学力向上を目指し、教職員の授業力向上を図るために授業研究会を実施し、8月に指導案検討会を行い、9月の研究授業は、小学校低、中、高学団、複式、中学校教科別に分かれて14授業を行った。研究会当日は、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業提示と熱心な協議が行われた。また、自校の取組や実践例の情報交換を行い、指導法の共有を図った。</p> <p>例年行っている郷土学習フィールドワークは、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、半日日程で実施した。</p> <p>ICT活用推進部会では、夏休みにICT活用研修会を行った。想定より多くの申し込みがあり、2回に分けて実施し、多くの教員がタブレットを活用した授業方法について研鑽を積んだ。</p>																																																														
◆自己評価																																																														
<p>授業研究会については、教職員アンケート「授業研究会における協議の視点についての話し合い(ワークショップ等)」において「十分満足」と「概ね満足」の割合が90%以上と、肯定的な評価である。</p> <p>県学習状況調査における「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」割合について、学年によっては県平均を下回っており、検証が必要である。しかし、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、全ての学年で8割以上(83~94%)となっている。市クリーンアップ等の行事を自主的に取り組む機会と捉え、さらに意欲を持てるよう価値付けをしていく。</p>																																																														
◆今後の方向性																																																														
<p>各校での教職員の研修を支援できるよう、教育センターの各部会の研修内容に更なる充実を図る。</p> <p>引き続き、「さらり☆きたあきた」の活用を推進するとともに、コロナ禍における、地域に根ざしたキャリア教育の在り方を模索していく。</p>																																																														
◆評価委員の意見																																																														
<p>様々な研修や授業研究会への取りくみに充実している状況が窺われ高く評価できる。それぞれの課題を検証し、さらに研修を深めることを通して授業力の向上に努められたい。</p> <p>市内小・中学校は、ほとんどが学年単学級であり、同一学年・同一教科を担当する教員が学校の枠を超えて共に研修する機会は非常に貴重である。</p>																																																														

6	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実					学校教育課																																																															
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成																																																																				
事業名	外国青年招致事業					決算額	28,248 千円																																																															
◆事業の目的 小学校外国語活動の全ての授業にALTを配置することにより、学級担任が安心して授業を計画し、実践できるようにする。また、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図り、異なった文化に対する理解を深めることを目的とする。			◆事業概要 小・中学校の外国語・外国語活動の授業の充実を図るため、ALT及びALTコーディネーターを配置する。 ALTコーディネーター 1人																																																																			
◆評価指標及び実績		アウトカム																																																																				
評価指標		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">県学習状況調査平均通過率で 県平均+3%以上</td> <td>中1</td> <td>-2.7%</td> <td>-3.6%</td> <td>+1.5%</td> <td>-3.2%</td> <td>-4.6%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>+3.8%</td> <td>-3.1%</td> <td>-2.1%</td> <td>-0.3%</td> <td>+0.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">県学習状況調査(児童生徒質問 紙調査)における質問事項「外国 語活動(英語)の勉強が好きだ」 が県平均+3%以上</td> <td>小5</td> <td>+10.4%</td> <td>-4.2%</td> <td>+1.6%</td> <td>-5.7%</td> <td>-1.7%</td> </tr> <tr> <td>小6</td> <td>+7.4%</td> <td>+4.9%</td> <td>-6.8%</td> <td>-1.2%</td> <td>-3.3%</td> </tr> <tr> <td>中1</td> <td>-7.8%</td> <td>-3.5%</td> <td>+6.7%</td> <td>-13.8%</td> <td>-10.6%</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>-10.8%</td> <td>-4.2%</td> <td>-3.9%</td> <td>-6.3%</td> <td>-5.9%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">英検IBA3級以上取得の割合が 県平均を上回る</td> <td>中3 県</td> <td>46.3%</td> <td>32.5%</td> <td>48.3%</td> <td>51.8%</td> <td>38.6%</td> </tr> <tr> <td>中3 市</td> <td>49.1%</td> <td>31.0%</td> <td>44.8%</td> <td>44.6%</td> <td>36.3%</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>+2.8%</td> <td>-1.5%</td> <td>-3.5%</td> <td>-7.2%</td> <td>-2.3%</td> </tr> </tbody> </table>							H30	R1	R2	R3	R4	県学習状況調査平均通過率で 県平均+3%以上	中1	-2.7%	-3.6%	+1.5%	-3.2%	-4.6%	中2	+3.8%	-3.1%	-2.1%	-0.3%	+0.8%	県学習状況調査(児童生徒質問 紙調査)における質問事項「外国 語活動(英語)の勉強が好きだ」 が県平均+3%以上	小5	+10.4%	-4.2%	+1.6%	-5.7%	-1.7%	小6	+7.4%	+4.9%	-6.8%	-1.2%	-3.3%	中1	-7.8%	-3.5%	+6.7%	-13.8%	-10.6%	中2	-10.8%	-4.2%	-3.9%	-6.3%	-5.9%	英検IBA3級以上取得の割合が 県平均を上回る	中3 県	46.3%	32.5%	48.3%	51.8%	38.6%	中3 市	49.1%	31.0%	44.8%	44.6%	36.3%	比較	+2.8%	-1.5%	-3.5%	-7.2%	-2.3%
	H30	R1	R2	R3	R4																																																																	
県学習状況調査平均通過率で 県平均+3%以上	中1	-2.7%	-3.6%	+1.5%	-3.2%	-4.6%																																																																
	中2	+3.8%	-3.1%	-2.1%	-0.3%	+0.8%																																																																
県学習状況調査(児童生徒質問 紙調査)における質問事項「外国 語活動(英語)の勉強が好きだ」 が県平均+3%以上	小5	+10.4%	-4.2%	+1.6%	-5.7%	-1.7%																																																																
	小6	+7.4%	+4.9%	-6.8%	-1.2%	-3.3%																																																																
	中1	-7.8%	-3.5%	+6.7%	-13.8%	-10.6%																																																																
	中2	-10.8%	-4.2%	-3.9%	-6.3%	-5.9%																																																																
英検IBA3級以上取得の割合が 県平均を上回る	中3 県	46.3%	32.5%	48.3%	51.8%	38.6%																																																																
	中3 市	49.1%	31.0%	44.8%	44.6%	36.3%																																																																
	比較	+2.8%	-1.5%	-3.5%	-7.2%	-2.3%																																																																
◆令和4年度の実施状況 外国語活動・外国語指導の充実を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指すため、外国語指導助手(ALT)として、6名を招聘し、小学校9校、中学校4校に派遣した。 ALTの人数や学級数、また原則的に中学校区単位で同一のALTを担当させ、児童生徒の視点とALTの児童生徒理解の視点から、小・中連携を図った。 ALTコーディネーター派遣事業を実施し、ALTの資質向上に努めた。																																																																						
◆自己評価 全ての項目・学年で、評価指標を達成することができなかったが、昨年度と比較し、県平均との差が縮まった学年もある。今後は、学年の実態に合わせた指導とともに、個に応じた指導の充実を図る必要がある。																																																																						
◆今後の方向性 コーディネーター訪問を定期的に行いALTの資質向上を図りながら、併せて、県等が開催するブロック会議や指導力向上研修等への参加により、ALTの指導力向上を目指す。																																																																						
◆評価委員の意見 事業の推進体制が整えられていることから、指導内容の工夫・改善を図るとともに、実績の向上に向けた取り組みを期待したい。 児童生徒の英語(外国語活動)に対する関心意欲や学力を高めるために、ALTと担当教員の密接な連携による質の高い授業実践を期待したい。																																																																						

7	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ③ ふるさとを愛し、ふるさとを支えようとする子どもの育成				
事業名	総合学習補助事業				決算額	851 千円
◆事業の目的		◆事業概要				
地域の暮らしや伝統・文化を学び、ふるさとのよさの発見、愛着心の醸成、ふるさとに生きる意欲の喚起を行い、ふるさとを支えようとする子どもを育成することを目的とする。		各校で実施するふるさと教育へ予算的支援をすることで創意工夫を促す。				
◆評価指標及び実績		例年実施				
		評価指標	R1	R2	R3	R4
		実施計画に対する執行率	83.3%	65.9%	86.4%	96.8%
◆令和4年度の実施状況						
令和4年度は、市内全ての小・中学校で実施され、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じながらの実施とし、可能な範囲で人々の暮らしや伝統、文化などを学ぶことにより、地域の良さの発見、愛着心の醸成、ふるさとに生きる意欲の喚起につながった。主な事業として、小学校は花壇作りや登山などの自然体験、地域の散策や交流活動、中学校では施設見学や職場体験を実施した。						
◆自己評価						
新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しつつ、各学校において適切な感染予防対策を講じながら実施可能な計画が立案されたことで、昨年を上回る活動が実施され、実施計画に対する執行率が上昇した。						
◆今後の方向性						
新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら、各学校の実態に合わせて更なる創意工夫を促すために内容に応じた配分を続ける。						
◆評価委員の意見						
児童生徒が地域を知ることが大事であり、その活動のための支援が適切に行われ、評価できる。各小・中学校において、ふるさと教育の充実・発展が図られておりコロナ禍の中でも年々、執行率が上昇していることは高く評価できる。地域との連携や創意工夫を通して、特色ある活動の一層の推進を図られたい。						

8	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	小・中学校パソコン導入事業(GIGAスクール構想)				決算額 22,990 千円	
◆事業の目的		◆事業概要				
<p>情報化に順応できる人材の育成のため導入を進めてきたPC及び周辺機器について、新型コロナウイルス感染症対策のため「学びの保障」の一端として整備し直し、一人1台端末による個別最適化により資質・能力を一層確実に育成することを目指すもの。</p>		<p>これまで三人に1台の想定で導入してきた学習者用タブレットを一人1台配置とした。また、教員の校務の円滑化を図るため導入してきたPC、プリンタ、サーバ等周辺機器について引き続き配置した。</p>				
◆評価指標及び実績		ロードマップ				
			R2	R3	R4	R5
			高規格化工事			
整備計画 (令和2年度～令和5年度)		タブレット新規購入				
		582台	403台	375台	331台	
高規格化工事		実施				
新規購入台数		1,428台	-	-	-	
配置替えによる対応台数		263台	-	-	-	
◆令和4年度の実施状況						
<p>文部科学省のロードマップに沿って整備を計画していたGIGAスクール構想だが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から計画を前倒して整備した。今年度は3校の校務用PC、プリンタ、サーバ等の周辺機器を更新した。また、タブレット持ち帰りによる家庭学習の推進のため、フィルタリングソフトを導入した。</p>						
◆自己評価						
<p>国で示すGIGAスクール構想に基づくIT環境について、令和3年度から本格的に運用を開始している。また今年度は、タブレット持ち帰りによる家庭学習を安全に実施するためのフィルタリングソフトを導入することで、ICTの活用による学習を推進することができた。</p>						
◆今後の方向性						
<p>導入したタブレットを活用した学習活動の充実を図ると共に、今後の更新計画について検討する。</p>						
◆評価委員の意見						
<p>IT環境の整備が進められ、機器の配置の幅が拡大されてきていることは高く評価できる。ICTの活用が学習活動の充実につながり学習効果が高まることを期待したい。 タブレットを活用した学習活動が進んでいるので、その効果を検証し、さらなる学力向上に生かしたい。</p>						

9	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	学校生活サポート員配置事業				決算額 55,102 千円	
◆事業の目的 教育的支援を必要とする児童・生徒の学校生活支援及び学校支援を行う。		◆事業概要 各学校の教員と連携の上、必要な支援に取り組む。				
◆評価指標及び実績		例年実施				
		評価指標	R1	R2	R3	R4
児童生徒数		小学校	1,115人	1,075人	1,033人	992人
		中学校	624人	602人	564人	572人
支援対象児童生徒数		小学校	103人	105人	108人	134人
		中学校	21人	13人	14人	19人
配置支援員数		小学校	25人	26人	25人	26人
		中学校	7人	4人	4人	4人
◆令和4年度の実施状況 特別な支援を必要とする児童生徒153人に対し、学校生活サポート員29名及び看護支援員1名を配置して、学校生活全般にわたって対象児童生徒の支援を行った。また、支援員の研修を行い質の向上に努めた。						
◆自己評価 支援員の配置により、対象児童生徒が充実した学校生活を送ることができたほか、周囲の児童生徒も落ち着いて学習に取り組むことができた。また、担任の負担が軽減されることで、学級経営や授業づくりが充実し、学校全体の教育効果を高めることができた。また、看護支援員を配置することで、医療的ケアが必要な児童が安心して学校生活を送ることができた。						
◆今後の方向性 対象児童生徒の学校生活の充実と、教員への負担軽減による教育効果の向上を図るため支援員の配置を継続していく。また支援員に対しては対象児童生徒の行動への理解や支援の仕方などのスキルを高めるための研修を行っていく。						
◆評価委員の意見 数多くのサポート員の配置に加えて看護支援員を措置するなど、きめ細かな対応について高く評価したい。この事業は、学級・学校経営の充実にもつながる貴重な事業であり継続実施を望まれる。看護支援員の配置は大いに評価できる。支援員の研修機会を増やし、一層のスキル向上に努めたい。						

10	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実				学校教育課
		目標 ① 次代を切り拓くための資質・能力の育成				
事業名	不登校児童生徒対策事業				決算額 1,118 千円	
◆事業の目的 不登校及び不登校傾向の児童・生徒と在籍校や関係機関と連携しながら、その保護者への総合的な支援も行い、学校復帰を目的とする。		◆事業概要 教育センター内に「北秋田さわやか教室」として、不登校児童生徒をサポートする適応指導教室を設置し、学校復帰に向けた支援や学習指導を行う。				
◆評価指標及び実績		例年実施				
		評価指標	R1	R2	R3	R4
		不登校または不登校傾向児童生徒数	14人	23人	35人	34人
		在籍者数	3人	3人	5人	3人
		うち学校復帰者数	0人	1人	3人	2人
◆令和4年度の実施状況 在籍者3人のうち、2人が学校復帰した。 長期休業日を除く月・火・木・金曜日の午前9時から午後3時45分まで「北秋田市さわやか教室」を開設し、常駐する教員免許所有者1名を配置した。						
◆自己評価 全国的にも不登校（不登校傾向）の児童生徒は増加傾向にあるが、個々の実態に合わせ、丁寧な支援を行って登校・登室に結び付くよう対応している。また、登校支援ネットワーク連絡会議で、関係機関との連携を図っている。						
◆今後の方向性 不登校（不登校傾向）児童生徒の居場所となり、学校復帰に向けた取組ができる重要な場所として今後も継続する。また、生徒の実態に合わせて学校訪問による指導を行い、学校復帰に向けたきめ細やかな支援を行うとともに、引き続き登校支援ネットワーク連絡会議で、あきたリフレッシュ学園等の関係機関と連携を図っていく。						
◆評価委員の意見 学校復帰に向けた支援が適切に機能している状況が窺われ高く評価できる。今後も関係機関との連携を深めながらきめ細かな支援の継続を図られたい。 不登校児童生徒の学校復帰だけではなく、学校以外につながる居場所としての目的もあってよいのではないかと考える。						

11	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実			学校教育課
		目標	① 次代を切り拓くための資質・能力の育成		
事業名	小・中学校校務支援システム導入事業			決算額	9,358 千円
◆事業の目的		◆事業概要			
教員の校務負担の軽減と、教育の質的向上を図ることを目的とする。		教員の校務負担の軽減を図るため校務支援システムを導入し、効果的な運用を図る。			
◆評価指標及び実績		アウトカム			
評価指標		実績			
アンケートにおいて、校務に係る作業時間が短くなったと答えた割合、また校務以外の時間が増えた・少し増えたと答えた割合が前年度に比べ増加すること。		校務支援システムを活用することにより、校務以外の時間(児童生徒と向き合う時間、教材研究等)について、増えた・少し増えたと答えた割合	R2	R3	R4
		1ヶ月の時間外在校等時間が年間平均45時間を超える教職員の割合	73.0%	75.9%	79.9%
			31.0%	33.6%	31.6%
◆令和4年度の実施状況					
システムの運用を継続し、導入の効果の指標としてアンケートを実施している。また令和2年度より、働き方改革に繋げるため、教職員の出退勤時刻について可視化できるよう出退勤管理システムを追加導入し、勤務時間の把握に努めている。					
◆自己評価					
校務以外の時間については「増えた・少し増えた」と答えた割合が増加しており、今後も校務支援システムの有効な活用方法を周知する。また、1ヶ月の時間外在校等時間が年間平均45時間を超える教職員の割合は、前年に比べ減少しており、労働時間の可視化による働き方改革の推進を図ることができた。					
◆今後の方向性					
引き続きシステムを運用し、教員の校務に係る負担を軽減して教育の質的向上に繋げる。アンケートについて導入前と比較した項目としているが、時間の経過と共に導入前の実感が薄れており、また新規教員については比較のしようがないため、来年度以降のアンケートについて項目を工夫する。					
◆評価委員の意見					
アンケートに前年より改善されてきている状況が見られ、望ましい方向にあると捉えることができる。さらに、システムの効果的な運用を図り、働き方改革につながっていくことを期待したい。 教員の校務に係る負担を軽減し、教育の質的向上に繋がられるよう一層の取組を期待したい。					

12	方針	心豊かでたくましい人間性を育む教育の充実		学校教育課
		目標	その他、特別な事業	
事業名	新型コロナウイルス感染症対策事業			決算額 2,204 千円
◆事業の目的 学校における感染リスクの低減を図り、持続的な学校運営を目的とする。		◆事業概要 感染症対策に必要な設備及び物品を整備する。		
◆評価指標及び実績		緊急対策		
		品目	実績	
		抗原検査簡易キット	800個	836,000 円
		センサー式ディスペンサー	35個	150,150 円
		電動アルコールスプレー	13個	106,964 円
		飛沫防止パーティション	13台	108,680 円
		ハンドソープ	520.00	400,400 円
		消毒用アルコール	758.50	601,370 円
◆令和4年度の実施状況 安全安心な学習環境を確保しつつ教育活動を着実に継続するため、新型コロナウイルス等の感染症予防に係る抗原検査簡易キットやアルコール消毒液、飛沫防止パネル等の保健衛生用品等を整備し、感染拡大防止に努めた。				
◆自己評価 各学校において、感染症対策を徹底しながら、児童生徒の安心安全な学習環境を確保しつつ、学校での教育活動を実施することができた。				
◆今後の方向性 新型コロナウイルス感染症の収束まで、引き続き検温や校内の消毒、適度な換気、手洗いの奨励により感染予防に努める。				
◆評価委員の意見 感染症対策に必要な設備、物品の整備がよく行われている。今後も感染症対策徹底の継続を図りたい。 必要な物品等が整備され、感染予防対策の充実が図られていることは高く評価できる。引き続き迅速な対応を心がけ、効果的な感染予防に努められたい。				

13	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課					
事業名	新成人事業 その他、特別な事業	決算額 730 千円					
◆事業の目的 「二十歳の集い」への参加を通して、責任ある社会人としての自覚を促すとともに、ふるさとを支える志の醸成にもつなげる。		◆事業概要 市内在住者及び市内中学校・大館国際情報学院中学校を卒業し、二十歳を迎えた人を対象に「二十歳の集い(式典・講演・写真撮影)」を実施する。 対象者で組織する実行委員会を設けて、「二十歳の集い」の自主的な運営を促している。					
◆評価指標及び実績		例年実施					
二十歳の集い(成人式)の参加率							
	実績	H30	R1	R2	R3		R4
					R2対象者	R3	
	対象者数	321人	318人	289人	296人	303人	261人
	参加者数 (オンライン)	234人	244人	180人	51人 (41人)	107人 (40人)	161人 (12人)
	参加率	72.89%	76.72%	未実施	31.08%	48.51%	66.28%
			※R2は未実施であったため参加者数には申込者数を記載				
			※R3、R4参加率は、オンライン参加者も含む				
◆令和4年度の実施状況			二十歳を迎えた市内中学校出身者等が対象で、「二十歳の集い実行委員会」を組織し、記念講演の講師や開催の方向性について協議した。8月15日にマスクの着用、検温、手指消毒などの感染対策を行い、開催することができた。来場できない方のために、オンラインでの配信を行った。				
◆自己評価			対象者で組織する二十歳の集い実行委員会を設けて、主体的な運営を図ることができた。 記念公演では、「自分を生きる」と題し、本城奈々さんによる音楽と講話をいただき、二十歳を迎えた方々にエールを送り門出を祝福することができた。				
◆今後の方向性			郷土愛を育む取り組みの一つの行事として、今後も継続して実施していく。また、自ら運営する「二十歳の集い」とするため、実行委員の役割分担を明確にし、式典内容の充実を図るとともに全体の参加率の増加を目指す。				
◆評価委員の意見			対象者が「二十歳の集い」を主体的に方向性を協議して運営の充実を図っていることは評価できる。この新たな「集い」が新成人としての自覚に大きく寄与していくことを期待したい。 実行委員会を組織し、対象者自らが運営することにより、主体性や自覚を促すことができ、よい取組である。オンラインでの配信を行ったことも評価できる。				

14	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひとまちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課			
	目標	① 協働による持続可能な地域づくり				
事業名	日本語教室開催事業		決算額 514 千円			
◆事業の目的		◆事業概要				
主に外国人配偶者や仕事のため市内に在住する外国人を対象に、日本語の読み書きや日常会話習得、検定合格等を目的とする。		講師1人、指導員2人で毎月3～4回日本語教室を開催し、日本語の習得と日本文化の理解につながるようサポートする。				
◆評価指標及び実績		例年実施				
日本語教室の開催回数及び受講者数						
	実績	H30	R1	R2	R3	R4
授業回数		35回	35回	37回	32回	39回
受講者数 (延べ)		164人	208人	258人	135人	150人
◆令和4年度の実施状況						
主に外国人配偶者や仕事のために市内に住んでいる技能実習生、市内小中学校ALTを対象に、日本語の読み書きや日常会話習得、検定合格等を目標に教室を開催した。感染対策として、密にならないよう会場を広く確保し、十分な距離をとるなどして開催した。また、阿仁ふるさと文化センターで行われた「北秋田のおひなまつり」を見学するため、事前に公共機関の使い方や自宅からの行き方、買い物の仕方などを勉強し、実際に内陸線やバスを使い実生活に対応した学習を行った。						
◆自己評価						
市内に定住している外国人が日常生活を送るために必要な日本語の習得のほか、資格取得のための学習にも活用している。 また、地域の文化に触れながら日本語を学ぶ授業を行っており、授業で学んだ内容を実践するだけでなく、日本文化の理解促進を図ることができた。						
◆今後の方向性						
引き続き、日本語の指導や教室でのコミュニケーションをとおして、受講者の日本での生活サポートを行っていく。						
◆評価委員の意見						
日本語教室の開催に止まらず、実生活に対応した学習を取り入れるなど活動内容の充実が図られており高く評価できる。今後も地域文化との触れ合い等工夫された学習活動が展開されることを期待したい。 外国人の方々にとって日本語を理解し話せることが生活全ての基盤となるので継続して重点的にサポートしたい。						

15	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひとまちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課			
	目標	① 協働による持続可能な地域づくり				
事業名	青少年育成事業		決算額 549 千円			
◆事業の目的		◆事業概要				
<p>青少年がその誇りと責任についての自覚を高めるため、非行・事故防止と社会環境の浄化を図る。青少年の健全育成を図るための地域組織の推進を図る。</p>		<p>生涯学習課が事務局の青少年問題協議会、その構成団体である「青少年育成北秋田市民会議」や「少年保護育成委員会」が、非行防止活動や青少年の見守り活動を実施し、健全な成長の支援活動を行う。(その他構成員:民生児童委員、保護司会、市議2名、警察署長、健康福祉部長ほか全18名)</p>				
◆評価指標及び実績		例年実施				
青少年育成事業の実施内容						
		H30	R1	R2	R3	R4
小中高等学校あいさつ運動(実施回数)	主催:市民会議	16回	12回	7回	11回	11回
伝承芸能合同発表会(実施有無)	主催:市民会議	○	○	×	×	○
研修会の実施(実施有無)	主催:問題協議会	○	○	×	○	○
◆令和4年度の実施状況						
<p>青少年育成市民会議等が、市内小中高等学校でのあいさつ運動(5月～10月:計11回)、街頭啓発活動を行った。また、子どもたちの伝承芸能合同発表会を11月19日に開催し、3団体が出演し披露し、郷土に対する誇りを持つことができた。</p> <p>関係団体や行政機関との情報交換の場として青少年問題協議会を開催し、活動報告や問題意識の共有を行った。総会研修会では講師に千葉薫氏を迎え、情報化社会における取組みについて講話をいただいた。</p>						
◆自己評価						
<p>青少年を取り巻く環境について、関係団体や行政機関との問題意識の共有を図ることができた。また、感染対策を行いながら各小中高等学校でのあいさつ運動、街頭啓発活動を行い、青少年の健全育成を図るための地域組織活動の推進につなげることができた。</p>						
◆今後の方向性						
<p>引き続き、地域の大人が青少年を育成するための課題や情報を共有する場を提供する。青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策を講ずるための調査審議をし、適切に実施するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図る。</p>						
◆評価委員の意見						
<p>青少年の健全な育成に向けた支援活動の重要性が高まってきている中で、きめ細かく、地道に活動が推進されていることは高く評価できる。今後も関係機関との連携や調整を図りながら青少年の育成に努められたい。青少年の健全育成を図るための活動の一層推進を期待したい。</p>						

16	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課			
	目標	① 協働による持続可能な地域づくり				
事業名	花いっぱい運動推進事業		決算額 324 千円			
◆事業の目的		◆事業概要				
花の美しさは、明るい社会を築くうえで大きな役割を果たすため、花だんづくりを通じた美しいまちづくりと地域づくりを目指す。		北秋田市花いっぱい運動推進協議会が主催する「北秋田市花だんコンクール」を支援する。市の花あじさいの植栽普及など地域ぐるみで環境美化運動の推進を行う。				
◆評価指標及び実績		例年実施				
花だんコンクール参加者数						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	12団体 4個人	14団体 4個人	12団体 3個人	16団体 1個人	14団体 2個人	14団体 3個人
◆令和4年度の実施状況						
「めざせ！花と笑顔いっぱいの北秋田市」をスローガンに、市の花あじさいの普及、北秋田市花いっぱい運動推進協議会主催の花だんコンクールを支援し、新規2団体1個人を加えた14団体3個人を表彰した。 また、花いっぱい運動推進協議会では、花の苗の育成と花種の頒布、5月には市の花あじさいの植栽事業(清鷹小学校)を実施した。 県の花だんコンクールにおいては、鷹巣小学校が2年連続教育長賞を受賞した。						
◆自己評価						
市花だんコンクールの開催や花育活動をとおして、美しいまちづくりと地域づくりへの啓蒙活動を推進することができた。市の花あじさい植栽普及など、環境美化運動の推進を行うことができた。						
◆今後の方向性						
引き続き、花だんコンクールや地域と小・中学校が連携した植栽活動をとおして、花を育てることで心が潤い地域が元気になる交流型の取り組みや環境美化の意識共有を図る。						
◆評価委員の意見						
花だんコンクールや植栽活動等における継続された緻密な実践が大きな成果となって表われてきており高く評価できる。今後も美しいまちづくりに貢献する取組みを推進されたい。 花で彩られた美しいまちや地域づくりをさらに推進するよう期待したい。						

17	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・ 目標 ③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携	生涯学習課										
事業名	地域学校協働本部事業	決算額 616 千円										
◆事業の目的 地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行い、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を育む。		◆事業概要 より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成する。										
◆評価指標及び実績												
評価指標	アウトプット											
地域学校協働活動推進員数(統括含む) 30人 (過去3年間の平均)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31人</td> <td>32人</td> <td>29人</td> <td>28人</td> <td>25人</td> </tr> </tbody> </table>	H30	R1	R2	R3	R4	31人	32人	29人	28人	25人	
H30	R1	R2	R3	R4								
31人	32人	29人	28人	25人								
地域学校協働活動に参加したボランティアと子どもの満足度 90%	アウトカム											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	H30	R1	R2	R3	R4	—	—	—	100%	100%	
H30	R1	R2	R3	R4								
—	—	—	100%	100%								
◆令和4年度の実施状況 市内全校に学校運営協議会が導入されており、各校の学校運営協議会にて地域学校協働活動推進員の委嘱を行った。 ネットワーク会議や学習会を開催し、講話や熟議、情報交換を行ったほか、鹿角市との情報交換会も行い、他地域の事例を学び、活動の課題について意見交換などを行った。鷹巣小学校では、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る取組が評価され、文部科学大臣表彰を受賞した。												
◆自己評価 市内全校に学校運営協議会が導入され、地域と学校の連携、地域ぐるみの人材育成の取組の基盤ができている。 学習会や情報交換会では、講話や熟議体験により、目標を共有し、自身の立場や役割を考えるきっかけとなった。また、たくさんの意見に触れることで新しい考えやヒントを学ぶことができた。												
◆今後の方向性 引き続き、各校との連絡調整や地域学校協働活動推進員の情報交換や研修会等を実施し、課題の共有や課題解決に向けた取り組みを実施する。												
◆評価委員の意見 地域と学校が連携し協働し合っって様々な活動が意欲的に取りくまれている。また、活動の内容も充実さを増してきており高く評価できる。今後も地域の子どもの成長を育む活動をなお一層推進されたい。 課題の共有や課題解決に努め、一層有益な事業となるよう期待したい。												

18	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課			
	目標	② 共に学びあえる生涯学習の推進				
事業名	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業		決算額 46,761 千円			
◆事業の目的		◆事業概要				
「憩い・交流・にぎわい」をコンセプトに中心市街地の拠点施設として、市民の自由な交流・活動の場であり、市民ふれあいプラザを拠点として学習活動を行う市民を増やし、交流人口の増につなげる。		中心市街地の拠点施設であり、市民のニーズを取り入れながら、多くの人に利用される施設となるよう適切な管理運営を行う。				
◆評価指標及び実績		アウトプット				
評価指標	市民ふれあいプラザ利用者					
ふれあいプラザ利用者(単年) 64,400人	実績	H30	R1	R2	R3	R4
	来館者数	295,481人	286,859人	216,829人	224,321人	225,171人
	利用者数(単年)	67,859人	60,937人	40,227人	48,140人	55,234人
	利用件数	4,552件	4,625件	4,121件	4,410件	4,582件
◆令和4年度の実施状況						
新型コロナウイルス感染対策として、利用者の協力を得ながら検温、マスクの着用、テーブル等の消毒を行い、利用者が安心して使用できるよう施設の維持管理に努めた。						
◆自己評価						
不特定多数の利用者がある施設のため、除菌清掃など感染対策を行い適切な維持管理に努め、市民が快適に利用できる環境を整えることができた。 年間来館者は225,171人と前年比100.4%、年間利用者は55,234人と前年比114.7%と回復傾向となっている。しかしながら、コロナ前の評価指標の達成には及ばず段階的な回復を目指したい。						
◆今後の方向性						
引き続き、中心市街地の活性化を図る拠点施設として、市民が集い交流できる場としての管理運営を心がける。また、災害避難場所としても役割も担っていく。						
◆評価委員の意見						
コロナ禍の中でも適切な維持管理に努めており、3年間にわたって利用者数等が年々増加傾向にあることは高く評価できる。今後も安心して交流活動ができる環境づくりに取りくみながら利用拡大に尽力されたい。 施設内の備品、設備等の状態把握に努め、一層利用しやすい施設となるよう期待したい。						

19	方針 目標 ② 共に学びあえる生涯学習の推進	生涯学習課																																																								
事業名	高齢者教育事業	決算額 564 千円																																																								
◆事業の目的	高齢者の学びの機会を充実させ、生きがいがづくりや仲間づくりを目的とする。	◆事業概要 市内4地区(鷹巣、合川、森吉、阿仁)において、入学式・卒業式、全体講座(年5回程度)、社会見学、クラブ活動(月1回程度)などを行っている。																																																								
◆評価指標及び実績	アウトプット 地区別受講者数 地区別受講者数(単年) 鷹巣191人以上 合川79人以上 森吉70人以上 阿仁52人以上 (過去3年間の平均)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鷹巣地区</td> <td>214人</td> <td>220人</td> <td>216人</td> <td>182人</td> <td>175人</td> <td>158人</td> </tr> <tr> <td>合川地区</td> <td>74人</td> <td>74人</td> <td>83人</td> <td>77人</td> <td>77人</td> <td>75人</td> </tr> <tr> <td>森吉地区</td> <td>84人</td> <td>88人</td> <td>82人</td> <td>60人</td> <td>70人</td> <td>61人</td> </tr> <tr> <td>阿仁地区</td> <td>54人</td> <td>57人</td> <td>57人</td> <td>50人</td> <td>49人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>425人</td> <td>439人</td> <td>438人</td> <td>369人</td> <td>371人</td> <td>339人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">アウトカム</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者の満足度調査 90%</td> <td>満足度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>69%</td> <td>86%</td> </tr> </tbody> </table>	実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4	鷹巣地区	214人	220人	216人	182人	175人	158人	合川地区	74人	74人	83人	77人	77人	75人	森吉地区	84人	88人	82人	60人	70人	61人	阿仁地区	54人	57人	57人	50人	49人	45人	合計	425人	439人	438人	369人	371人	339人	アウトカム		H30	R1	R2	R3	R4	利用者の満足度調査 90%	満足度	—	—	—	69%	86%
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																																				
鷹巣地区	214人	220人	216人	182人	175人	158人																																																				
合川地区	74人	74人	83人	77人	77人	75人																																																				
森吉地区	84人	88人	82人	60人	70人	61人																																																				
阿仁地区	54人	57人	57人	50人	49人	45人																																																				
合計	425人	439人	438人	369人	371人	339人																																																				
アウトカム		H30	R1	R2	R3	R4																																																				
利用者の満足度調査 90%	満足度	—	—	—	69%	86%																																																				
◆令和4年度の実施状況	各地区でコロナウイルスの影響を受けず順調に事業を実施することが出来た。4地区の受講生が一堂に集まる合同講座も3年ぶりに開催され、秋田大学の医師を講師に招き、講話と軽い運動を混ぜた参加型の講演を実施した。 また、鷹巣地区の学園祭では、3年ぶりに演説発表やクラブ紹介を行い、日頃の成果を発表する場を創出したことで学生の意欲の高揚に繋がった。																																																									
◆自己評価	受講生の高齢化、自然減の影響により、受講生数は減少傾向となっており評価指標を達成することが出来なかった。しかし、受講生の生きがいがづくりや交流の場を確保し、前向きに学習する機会を提供することができた。																																																									
◆今後の方向性	引き続き、高齢者の生きがいがづくりはもちろん、受講生個々の自主的な学習意欲を高める学びの機会を提供する。また、受講生の意見を反映しつつ、より多くの受講生が参加できるよう魅力ある講座を企画・実施していく。																																																									
◆評価委員の意見	受講者数の減少にはやむを得ない状況がある中でも合同講座や講演の実施等、活発な活動が行われており評価できる。引き続き、学びの機会の充実を図られたい。 受講者の興味、関心を把握した講座の企画と実施を継続するよう期待したい。																																																									

20	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課
	目標 ② 共に学びあえる生涯学習の推進	
事業名	公民館講座開設事業	決算額 2,463 千円
◆事業の目的 心の豊かさや生活の向上のために学習機会の提供を行い、その学習をとおして地域活動への参加を促進することを目的とする。		◆事業概要 ・定期講座・短期講座・公開講座 各公民館及び北秋田市民ふれあいプラザにおいて、生涯学習の推進のため各種講座を開催した。
◆評価指標及び実績		
評価指標	アウトプット	
	定期講座・短期講座・公開講座	
		H30 R1 R2 R3 R4
	講座開催数	324回 371回 355回 330回 322回
	延べ受講者数	3,946人 3,460人 4,253人 3,622人 3,600人
自主講座への移行数 25講座(過去5年間の累計)	自主講座移行数	25 31 35 23 23
	自主講座講師人数	79人 157人 164人 182人 199人
	アウトカム	
		H30 R1 R2 R3 R4
自発的に学習する市民の割合 60.0%	自発的に学習する 市民の割合	58.2% 57.9% 58.7% 63.5% 63.5%
◆令和4年度の実施状況 各公民館及び市民ふれあいプラザにおいて各種講座を開催し、学びの場を提供した。 また、生涯学習フェスタや文化祭で学習の成果を発表(展示)した。 《定期講座数・延べ受講者数》 鷹巣 34講座 (2,061人) 合川 13講座 (653人) 森吉 7講座 (437人) 阿仁 8講座 (449人) 計 62講座 (3,600人)		
◆自己評価 継続した学びの場を提供するため、様々な短期講座を企画し市民ニーズの把握に努めた。また、講座を通して新たな趣味の発見や仲間づくりにつなげることができたほか、発表の場を設けることで、生涯学習に対する意識の向上を図った。		
◆今後の方向性 受講修了後のアンケート実施や短期講座の開催などを通し、市民の学びのニーズを把握する。地域課題に対し関心を持ってもらい、主体的に講座に参加してもらえるよう講座運営に努める。SNS等を活用した情報発信により、幅広い年代への周知を図る。		
◆評価委員の意見 市民のニーズを把握した講座を開設し、市民に学びの場を提供していることは大いに評価できる。 それぞれの講座が継続して企画されており、自発的に学習する市民の割合が年々増加してきていることは望ましい傾向にある。企画内容の工夫など運営の充実を図られたい。		

21	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課				
	目標	② 共に学びあえる生涯学習の推進					
事業名	公民館管理事業	決算額	95,429 千円				
◆事業の目的		◆事業概要					
地域の拠点として、多くの市民に親しまれる公民館を目指し、学び・発表の場や地域活動の場を提供する。施設の維持管理に努め、利用者の利便性向上を図る。		適切な維持管理により、施設利用者の安全・安心に努める。また、施設の使用許可申請や使用料減免制度等を整備し、利用者の利便性向上を図る。					
◆評価指標及び実績		例年実施					
年間施設利用者数							
	実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
鷹巣地区		37,233人	30,843人	34,095人	23,844人	27,547人	26,484人
合川地区		24,206人	23,193人	21,146人	4,404人	4,154人	16,925人
森吉地区		19,242人	18,026人	17,279人	12,508人	15,316人	15,309人
阿仁地区		11,985人	12,609人	11,819人	6,548人	7,947人	9,612人
		92,666人	84,671人	84,339人	47,304人	54,964人	68,330人
*利用者数は対前年比13,366人の増(124.3%)であった。							
◆令和4年度の実施状況							
○コロナ対策 利用者の協力を得ながら検温、マスクの着用、テーブル等の消毒など感染対策を行い、利用者が安心して使用できるように努めた。							
○施設整備 定期的に施設内外の点検を行うことで計画的に修繕等を施し、利用者の安全・安心に努めたほか、トイレ等に設置している手洗器を自動水栓化し感染対策を図った。							
◆自己評価							
新型コロナウイルス感染対策を行いながら、適切な施設の維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して利用することができた。 合川公民館については、4月24日リニューアルオープンイベントを実施し、生涯学習の地域拠点として市民に大いに利用された。							
◆今後の方向性							
各公民館施設は、学びの場、地域活動の場、また災害時の避難場所としても必要不可欠な地域の拠点施設である。事業を継続し長寿化を図りながら、大規模改修や建替についての検討が今後必要となってくる。							
◆評価委員の意見							
地域の拠点施設である公民館の適切な維持管理に努め、利用者の利便性をさらに図っていききたい。 感染症防止対策が徹底して行われ、施設の点検や修繕等が定期的に行われていることが安全・安心な公民館運営に結びついており高く評価できる。引き続き、利用者の利便性向上に努められたい。							

22	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課				
	目標	③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携					
事業名	放課後児童健全育成事業		決算額 120,110 千円				
◆事業の目的		◆事業概要					
保護者が就労などの事情で、学校の授業が終わった後や夏休みなどの長期休業中に家庭に居ない児童に、大人の見守りのもとで安心して遊びや学び、活動の場を与え、健全な育成を図る。		児童が安全・安心に過ごせるような環境づくりと、必要な保育を行う。					
◆評価指標及び実績		例年実施					
放課後児童クラブ登録児童数及び支援員数							
上段:児童数 ():支援員数		実績	R1	R2	R3	R4	運営形態
鷹巣小		136人 (16人)	140人 (17人)	135人 (17人)	152人 (15人)	市社協 委託	
鷹巣東小		29人 (6人)	30人 (6人)	30人 (5人)	39人 (5人)	市社協 委託	
綴子小		49人 (6人)	52人 (6人)	42人 (6人)	42人 (6人)	市社協 委託	
清鷹小 (中央小)		55人 (5人)	49人 (6人)	86人 (8人)	79人 (8人)	市社協 委託	
鷹巣南小		32人 (5人)	25人 (4人)	/	/	(~R2直営)	
鷹巣地区 小計		301人 (38人)	296人 (39人)	293人 (36人)	312人 (34人)	/	
合川小		153人 (17人)	157人 (17人)	146人 (15人)	136人 (13人)	市直営	
米内沢小		84人 (8人)	96人 (8人)	83人 (7人)	84人 (8人)	市直営	
前田小		40人 (4人)	28人 (4人)	25人 (4人)	22人 (5人)	市直営	
森吉地区 小計		124人 (12人)	124人 (12人)	108人 (11人)	106人 (13人)	/	
阿仁合小		12人 (5人)	18人 (5人)	20人 (5人)	17人 (5人)	市直営	
大阿仁小		18人 (9人)	18人 (11人)	15人 (9人)	14人 (7人)	市直営	
阿仁地区 小計		30人 (14人)	36人 (16人)	35人 (14人)	31人 (12人)	/	
合計		608人 (81人)	613人 (84人)	582人 (76人)	585人 (72人)	/	
待機児童数		0人	0人	0人	0人	/	
◆令和4年度の実施状況							
保護者が就労等で留守になり保育できない小学生を対象に、家庭にかわって安全・安心に過ごせる場所として9施設15クラスの児童クラブを運営した。							

◆自己評価

児童が放課後・土曜日・長期休校時に過ごせる居場所の提供をすることができ、児童と保護者に安全・安心な時間を提供することができた。

◆今後の方向性

引き続き、児童が安全・安心に過ごせるよう、支援員等の人材確保・育成、施設の管理に努めていく。

◆評価委員の意見

児童が安全かつ安心して過ごせるよう、支援員への指導助言も含めた適切な管理運営に引き続き努めたい。
各小学校への児童クラブの配置状況がくわしく表示されており、安定した運営が窺われ高く評価できる。今後とも支援員の確保とともに安全・安心な環境づくりに努められたい。

23	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・生涯学習・・・ 目標 ③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携	生涯学習課																								
事業名	放課後子ども教室推進事業	決算額 1,725 千円																								
◆事業の目的 放課後や週末等において、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する。		◆事業概要 ・放課後子ども教室 市内全児童を対象に、放課後に勉強やスポーツ、文化活動、交流活動などを行い、子どもたちの学校教育以外の様々な体験・交流活動の機会を作る。																								
◆評価指標及び実績 放課後子ども教室の開催回数と参加人数及び指導者数 開催回数 107回 参加人数 2,808人 (過去3年間の平均)		アウトプット <table border="1" data-bbox="555 656 1313 835"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>217回</td> <td>150回</td> <td>89回</td> <td>84回</td> <td>90回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>4,887人</td> <td>3,796人</td> <td>2,289人</td> <td>2,339人</td> <td>2,344人</td> </tr> <tr> <td>指導者数</td> <td>29人</td> <td>22人</td> <td>24人</td> <td>22人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>	実績	H30	R1	R2	R3	R4	開催回数	217回	150回	89回	84回	90回	参加人数	4,887人	3,796人	2,289人	2,339人	2,344人	指導者数	29人	22人	24人	22人	20人
実績	H30	R1	R2	R3	R4																					
開催回数	217回	150回	89回	84回	90回																					
参加人数	4,887人	3,796人	2,289人	2,339人	2,344人																					
指導者数	29人	22人	24人	22人	20人																					
◆令和4年度の実施状況 地域住民の参画を得ながら、鷹巣東小を除く8教室で放課後子ども教室を開催し、対象児童数は減少しているが、昨年度より開催回数と参加人数を増やすことが出来た。子どもたちの安全・安心な放課後の居場所づくりのため、開催回数や参加人数を現状維持出来るよう、指導員のフォローを継続し様々な体験学習の企画に努めた。																										
◆自己評価 事故なく放課後子ども教室事業を継続したことで、子どもたちが安全・安心して過ごせる居場所づくりができた。特に、木育や畑で落花生を育てるなど、新しい内容の企画をしたことで児童と地域の方々が一緒になって様々な体験をし、楽しみながら学びを深めることができた。今後も児童が学校では出来ない体験と学びを得られるよう、指導員への支援を継続していきたい。																										
◆今後の方向性 子どもたちに地域の自然や文化を教えることで、地域の魅力を伝えていく取り組みとともに人材確保をし活動回数の維持を図る。																										
◆評価委員の意見 人材確保や体験学習の企画などにおける大変さも察せられるが、学校以外でのよい学びの場となっており、活動回数を維持できるよう努めたい。 開催回数や参加人数が増えていることに加えて、新たな企画を開発して実践していることは高く評価できる。児童が学校教育以外の体験や学びを得ることは貴重な機会であり、ぜひ継続実施に努められたい。																										

24	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひとまちづくり・・・生涯学習・・・	生涯学習課			
	目標	③ 子どもたちをはぐくむ学校・家庭・地域社会の連携				
事業名	家庭教育支援推進事業		決算額 524 千円			
◆事業の目的		◆事業概要				
<p>健やかな子どもの育成を目指し、全ての親が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域の多様な人材で構成する「家庭教育支援チーム」を設置し、親の学びや育ちを応援するとともに、家庭と地域・学校をつなげ、地域全体で家庭教育を支援していく。</p>		<p>・家庭教育講座 乳幼児から小・中学校の子どもを持つ保護者を対象に、家庭教育に関する講座を開催する。 ・家庭教育支援チーム にこっと 8名の支援員から構成され、市のイベント等で、親子のふれあいサロン、家庭教育相談窓口開設、手作りおもちゃブースの対応等行っている。</p>				
◆評価指標及び実績		例年実施				
家庭教育講座数とチーム員数						
	実績	H30	R1	R2	R3	R4
	家庭教育講座	2件	5件	2件	2件	3件
	サロン実施数	0回	2回	0回	2回	3回
	チーム員数	8人	8人	8人	8人	8人
◆令和4年度の実施状況						
○家庭教育講座						
6月4日 (鷹巣東保育園) 「親子で楽しむ体軸体操」						
6月25日 (七日市保育園) 「親子で楽しく運動遊びをしよう」						
11月12日 (認定こども園しゃろーむ) 「わが子の自立に向けて～乳幼児期の育ちと学びを土台に～」						
○親子遊びサロン(自主活動)						
6月4日、6月11日、6月18日 親子遊びサロン(北欧の杜公園)						
○家庭教育支援チーム						
活動の準備作業や話し合いのために毎月チーム会議を行った。						
北秋田市子育て世代包括支援センター主催の「にじいろリボン」において親子支援活動を行った。また、大館人権擁護協議会北秋田部会主催の人権擁護教室で、講師として朗読劇を行い、子どもと一緒にいじめや人権について話し合うなど子どもたちの心の発達支援と育成を図った。						
◆自己評価						
コロナ禍でもできる支援活動を模索し、親子のコミュニケーションの機会を作る親子遊びサロンを自主的に開催することができた。						
◆今後の方向性						
家庭教育支援チームとしては、地域の団体や学校と連携したものだけでなく、チーム独自の活動を行いたいと考えており、より多くの人に活動を知っていただくことで支援する機会を増やしたい。また、幼・保育園や小学校の親子学習会などで講演する場をいただき、積極的に親子のつながりと家庭教育の大切さを伝えていきたい。						
◆評価委員の意見						
講座や自主活動、支援チームのそれぞれの実施状況に活動の広がりや内容の充実さが十分窺われ高く評価できる。今後も取りくみの工夫とアイデアを生かしながら支援の継続を図られたい。						
家庭教育支援チームの活動をさらに周知するとともに、チーム独自の活動の機会を増やすための支援を期待したい。						

25	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・ 目標 ⑤ 文化財保存・継承の推進	生涯学習課																		
事業名	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業 (伊勢堂岱遺跡世界遺産管理事業)	決算額 598 千円																		
◆事業の目的 伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産一覧表への記載を目指す。(令和3年7月に登録された)		◆事業概要 構成する17遺跡の関係自治体が連携・共同し、縄文文化や縄文遺跡の価値を伝え、理解を深める。フォーラムの開催や活用事業等を通して、世界遺産の価値について広く情報を発信する。																		
◆評価指標及び実績 <div style="text-align: center;"> <p>ロードマップ</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th>H20</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;"> <div style="border: 2px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 世界遺産登録に向けた事業の実施 </div> </td> </tr> <tr> <td>国の暫定一覧表に記載</td> <td>文化遺産国内候補</td> <td>ユネスコへの推薦決定</td> <td>イコモス現地調査</td> <td>世界遺産登録</td> <td>保存活用</td> </tr> </tbody> </table> </div>			H20	H30	R1	R2	R3	R4	<div style="border: 2px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 世界遺産登録に向けた事業の実施 </div>						国の暫定一覧表に記載	文化遺産国内候補	ユネスコへの推薦決定	イコモス現地調査	世界遺産登録	保存活用
H20	H30	R1	R2	R3	R4															
<div style="border: 2px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 世界遺産登録に向けた事業の実施 </div>																				
国の暫定一覧表に記載	文化遺産国内候補	ユネスコへの推薦決定	イコモス現地調査	世界遺産登録	保存活用															
◆令和4年度の実施状況 17遺跡の関係自治体で構成する縄文遺跡群世界遺産協議会では、本部会議(年1回開催)、協議会全体会(年2回開催)、専門家会議(年2回開催)を開催し、各遺跡の保存管理のあり方、遺跡周辺で行われる開発への対応、活用方法などを議論した。 また、秋田県内では秋田県と共同でフォーラムを9月に開催し、多くの参加者に遺跡の魅力を説明した。																				
◆自己評価 関係自治体と連携し、世界文化遺産としての伊勢堂岱遺跡の保存・管理を進めることができた。遺跡周辺で行われる開発について関係部署と連携し対応することができた。																				
◆今後の方向性 伊勢堂岱遺跡の世界文化遺産としての価値を損ねないように、保存管理に努める。また、引き続き遺跡の価値を市民をはじめ広く発信する。																				
◆評価委員の意見 関係自治体と連携を図りながら遺跡の保存管理のあり方について、継続して協議を深めていることは評価できる。今後はますます保存活用が重要視される所であり、発展的な取りくみを期待したい。 価値について広く情報発信するための一つとして、「世界文化遺産」をもっと前面に出していけばよいと考える。(市内の案内板に「世界文化遺産」の表示のないものがある。)																				

26	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・ 目標 ⑤ 文化財保存・継承の推進	生涯学習課				
事業名	縄文まつり開催事業	決算額 600 千円				
◆事業の目的 伊勢堂岱遺跡の価値や魅力を市民に伝え、様々な体験活動をとおして参加者の交流を図る。世界遺産登録に向けたPRを行う。(令和3年7月に登録された)		◆事業概要 ・縄文体験青空教室(土器・土偶づくり、勾玉づくり、火おこしなど) ・ミニコンサート				
◆評価指標及び実績						
縄文まつり		アウトプット				
参加者数388人(過去4年間平均)以上						
縄文まつり参加者数						
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
約300人	約300人	約350人	約600人	—	—	768人
評価指標(数値目標)		アウトカム				
伊勢堂岱遺跡に関する市のイベントや関連団体に参加するなど既に協力している市民の割合		目標値	2.0%			
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
1.9%	1.6%	2.3%	2.2%	1.4%	2.5%	0.3%
◆令和4年度の実施状況 コロナ禍により、3年ぶりの開催となった。平成13年に始まったこのまつりの20回目であることや、世界遺産登録から1周年ということ節目であることから、市商工観光課や、市観光物産協会、DMOかづのなどと連携し、新しい体験を提供することができた。						
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために配慮しながらも、縄文まつりの参加者数という目標を達成することができた。縄文まつり開催が遺跡の価値の発信の重要なイベントとして定着している。						
◆今後の方向性 遺跡の価値や魅力を伝えるために継続して実施していく。興味の薄い世代にも関心を持ってもらえるような取組が、引き続きの課題である。						
◆評価委員の意見 他の機関との連携を通して新しい施策を講じており、コロナ感染前より参加者数が大幅に増加していることは高く評価できる。引き続き様々な体験活動の充実と課題の克服に努められたい。 新しい体験を提供できたことは評価できる。内容に新しさを加えながら継続を図りたい。						

27	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・	生涯学習課			
	目標	⑤ 文化財保存・継承の推進				
事業名	伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業		決算額 56,311 千円			
◆事業の目的		◆事業概要				
伊勢堂岱縄文館を拠点として遺跡の保存と活用を進め、遺跡の理解を深めるとともに、その価値や魅力を発信する施設として維持管理を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の発掘調査の成果や出土品の展示 ・施設、遺跡の管理及び情報の発信 ・カムバック縄文サーモン、縄文まつり、縄文館講座、ジュニアボランティアガイドの育成などの事業 				
◆評価指標及び実績						
縄文館入館者数		アウトプット	評価指数(目標) 10,000人			
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
10,184人	6,206人	9,499人	8,287人	5,133人	18,346人	16,871人
評価指標(数値目標)		アウトカム				
伊勢堂岱遺跡を見学したことのある市民の割合		目標値	50.0%			
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
26.8%	29.7%	30.2%	30.3%	28.9%	31.9%	39.8%
◆令和4年度の実施状況						
<p>施設管理、遺跡内の草刈等環境整備や電気柵の管理を滞りなく行った。新型コロナウイルス感染症拡大に配慮しながら、伊勢堂岱縄文館講座(2回)、ジュニアボランティアガイドの活動など例年の事業に加え、秋田県とは、ガイドの「外国語サポート事業」や、遺跡で気球を上げる「世界遺産魅力発見イベント」、「世界遺産白神山地と縄文遺跡群共同フェア」、市商工観光課とは「ガイドとめぐるスペシャル縄文デー」などの事業を実施した。</p> <p>また、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金の採択を受け、世界遺産「伊勢堂岱遺跡のXR化」事業を実施し、遺跡の360° VRや、出土品の3Dなどの鑑賞システムを整備した。</p>						
◆自己評価						
<p>施設管理、遺跡内の環境整備を行うことで、来館者の安心安全が図られた。イベントについては、カムバック縄文サーモン、縄文まつり等のイベントは定着しており、ジュニアボランティアガイドの活躍は遺跡の魅力を伝えるための大きな役割を果たしている。さらに関係部署や機関と連携し、新たなイベントを実施したことで、世界遺産登録1周年を盛り上げることができた。</p>						
◆今後の方向性						
<p>今まで以上に注目されると予想されることから、遺跡の魅力を伝えるための情報発信や、学びの場としての活用を図る。また、多くの市民に足を運んでもらうためのアクセス情報の提供等に取り組む。</p> <p>縄文館の展示・解説などで遺跡の学術的な価値をわかりやすく解説できるように、学芸員の能力をさらに高める。</p>						
◆評価委員の意見						
<p>講座やイベント等の事業に多様な展開が図られており、内容も多岐にわたって充実した内容が窺われることから高く評価できる。他にはない様々な特色ある取りくみがさらに充実発展することを期待したい。</p> <p>市内の自治会、サークル、グループなどの単位で遺跡を見学する企画があれば、市民の見学者増につながるのではないかと考える。</p>						

28	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・	生涯学習課					
	目標	④心を豊かにする芸術文化の振興	決算額 15,809千円					
事業名	図書館事業							
◆事業の目的 市民の学習の場の提供のため、施設の維持管理と図書 の充実を図る。また、読書活動の推進に努め、図書 館・公民館図書室のネットワークサービスの充実を図る。			◆事業概要 ・市内2図書館(鷹巣・森吉図書館)、2図書室(合川・阿 仁公民館図書室)の図書購入、貸出・管理 ・北秋田市図書館協議会の開催 ・北秋田市子ども読書活動推進事業の推進 ・きたあきた読書まつりの開催 ・市内保育園・認定こども園児の図書館体験デーの実施					
◆評価指標及び実績								
貸出冊数			アウトプット					
評価指数(目標値)			実績					
43,142冊以上			H30	R1	R2	R3	R4	
(個人と団体を合わせた貸出冊 数で、過去3年間の平均)			貸出冊数(個人) ※2館、2室分	43,704冊	44,374冊	40,594冊	40,534冊	38,455冊
			貸出冊数(団体) ※2館、2室分	1,662冊	1,428冊	1,473冊	1,022冊	835冊
利用者数			アウトプット					
評価指数(目標値)			実績					
貸出人数 15,300人以上			H30	R1	R2	R3	R4	
			貸出人数 ※2館、2室分	15,880人	16,191人	14,745人	14,964人	14,390人
来館者数 35,132人以上 (過去3年間の平均)			来館者数 ※2館のみ	39,173人	37,325人	34,497人	33,573人	31,587人
きたあきた読書まつり、読書感想文・読書感想画コンクール			例年実施					
			H30	R1	R2	R3	R4	
			読書まつり来館者数 ※2館、2室分		2,118人	3,496人	3,416人	
			コンクール応募者数	548人	563人	517人	523人	426人
			※きたあきた読書まつりは、R2年度より2館、2室で本格開催(R1は試験的实施)					
◆令和4年度の実施状況								
市読書感想文・感想画コンクールや市内認定こども園・保育園10園の園児を対象にした「図書館体験デー」を実施した。また、令和3年度に引き続き、読書週間に合わせて、10月27日から11月27日まで、2館、2室で、「きたあきた読書まつり」を開催した。読書まつりでは、市読書感想文・感想画コンクールの表彰式や読み聞かせおはなし会スペシャル及び貸出冊数の増と貸出期限の延長、特別展示、自前の本へのブックコートサービス、選書体験、小イベントの実施、雑誌の無償配布を行った。								
◆自己評価								
「きたあきた読書まつり」については、貸出冊数の増と貸出期限の延長を喜ぶ声も多く聞かれ、ブックコートサービスの申込や小イベントに参加する人も多かった。例年人気の雑誌のリサイクルも用意している冊数が全部配布できるなど、利用者の反響も良く、子どもから大人まで読書に親しむ機会を提供できたと実感している。 年度末に実施した図書館・公民館図書室利用者アンケートの集計結果を元に、評価指標に達しなかった原因を分析しながら、全体として図書館で実施しているイベント、新着本などの情報周知を工夫し、実施している事業等の改善などに取り組んでいきたい。								
◆今後の方向性								
現在実施している図書館業務を継続しながら、改善点を見つけ、工夫を凝らし、利用者の利便性につながる取組を実施していきたい。								
◆評価委員の意見								
それぞれの催し物や展示等に興味・関心をひきつける工夫が見られ、きめ細かな施策は高く評価できる。アンケート等の活用を通して改善する内容を吟味し目標値(評価指数)達成を図られたい。 「きたあきた読書まつり」の幟を新たに立てて開催をアピールするなど読書活動の推進、利用者増に向けた様々な取組をしており評価できる。								

29	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・	生涯学習課		
	目標	④心を豊かにする芸術文化の振興			
事業名	文化会館運営事業		決算額 50,704 千円		
◆事業の目的 市民の芸術文化活動の振興を図るとともに、芸術文化活動団体の育成に寄与する。		◆事業概要 貸館業務 施設の維持管理			
◆評価指標及び実績					
利用者数	アウトプット				
評価指数(目標値)	実績	R1	R2	R3	R4
13,292人	音楽	6,961人	1,635人	4,012人	6,531人
(過去3年間の平均)以上	舞踊	2,740人	283人	162人	1,459人
	映画	1,435人	270人	885人	1,183人
	演劇	525人	1,072人	802人	593人
	その他(会議等)	9,876人	4,468人	4,749人	9,432人
	合計	21,537人	7,728人	10,610人	19,198人
◆令和4年度の実施状況 適切な維持管理を行い芸術文化活動の場を提供できた。感染症の収束と共に利用者数も増加に転じ、令和4年度の利用者数は19,198人となり、前年比で約181%となった。					
◆工事の概要 舞台諸幕交換工事、インターカム設備改修工事、手洗器自動水栓取付工事、外壁補修工事			事業費 14,036 千円		
◆自己評価 感染症に収束傾向が見受けられることから、利用者数は増加に転じて、引き続き増加傾向にある。4年度の12月以降に行われた当館の自主事業2公演はいずれもホールが満員となった。また、建物等の適正な維持管理に努めたことで、多くの市民が安心して利用することができた。					
◆今後の方向性 当館は建設から30年以上経過し、経年劣化が見られることから、適正な維持管理を行い、多くの市民に安心して利用してもらえるように努めたい。					
◆評価委員の意見 施設工事の計画的な実施とともに利用者数の大幅な増加は市民の芸術文化に対する関心が高まってきていると捉えられ、高く評価できる。引き続き多くの市民の利用増加につながるよう、企画・運営の工夫に努められたい。建物等の適切な維持管理に努めながら、市民に芸術文化活動の場を提供できるよう今後も期待したい。					

30	方針 目標 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひとまちづくり・・・文化・・・ ④ 心を豊かにする芸術文化の振興	生涯学習課																																																			
事業名	文化会館自主事業	決算額 4,410 千円																																																			
◆事業の目的 市民が芸術文化に触れる機会を提供する。感性や創造性が生まれ、心豊かな活力ある社会に寄与する。		◆事業概要 公演・映画・展示等のイベントの開催																																																			
◆評価指標及び実績																																																					
文化会館自主事業 評価指数(目標) 来場者数 1,032人 (過去3年間の平均)以上	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">アウトプット</th> <th colspan="4">実績</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">公演</td> <td>実施回数</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>0回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>1,104人</td> <td>153人</td> <td>0人</td> <td>1,628人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">映画</td> <td>実施回数</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>79人</td> <td>129人</td> <td>124人</td> <td>98人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">展示</td> <td>実施回数</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>1,300人</td> <td>208人</td> <td>未集計</td> <td>430人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>来場者数</td> <td>2,483人</td> <td>490人</td> <td>124人</td> <td>2,156人</td> </tr> </tbody> </table>		アウトプット		実績						R1	R2	R3	R4	公演	実施回数	2回	2回	0回	4回	来場者数	1,104人	153人	0人	1,628人	映画	実施回数	1回	2回	2回	2回	来場者数	79人	129人	124人	98人	展示	実施回数	3回	2回	1回	2回	来場者数	1,300人	208人	未集計	430人	合計	来場者数	2,483人	490人	124人	2,156人
アウトプット		実績																																																			
		R1	R2	R3	R4																																																
公演	実施回数	2回	2回	0回	4回																																																
	来場者数	1,104人	153人	0人	1,628人																																																
映画	実施回数	1回	2回	2回	2回																																																
	来場者数	79人	129人	124人	98人																																																
展示	実施回数	3回	2回	1回	2回																																																
	来場者数	1,300人	208人	未集計	430人																																																
合計	来場者数	2,483人	490人	124人	2,156人																																																
◆令和4年度の実施状況 企画した6事業を行ったほか、研修事業(二戸歴史民俗資料館渡辺喜恵子特別ミニ企画展研修)を行った。 ①松尾秀一作品展 ②ファルコン寄席 ③ファルコン民謡祭 ④ファルコンシネマ ⑤陸上自衛隊第9音楽隊演奏会 ⑥東儀秀樹&ピアノ五重奏コンサート																																																					
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、公演・映画・展示等のイベントを行い、市民が芸術文化に触れる機会を提供できた。																																																					
◆今後の方向性 より多くの市民が芸術文化に触れる機会を提供できるよう、市民のニーズに合わせたイベントの企画づくりに取り組む。																																																					
◆評価委員の意見 感染症対策の徹底を図りながら、イベント数を増やし、新たな研修事業を加えるなど来場者数の増加に努めたことは高く評価できる。今後も企画づくりに工夫を凝らし、芸術文化に触れる貴重な機会を確保されたい。 格安のチケットで市民が一流の芸術文化に触れる機会を提供しており、大いに評価できる。今後も市民のニーズに応じたイベントの開催を期待したい。																																																					

31	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・	生涯学習課		
	目標	④ 心を豊かにする芸術文化の振興			
事業名	みちのく子供風土記館運営事業		決算額 308 千円		
◆事業の目的 直木賞作家渡辺喜恵子氏を顕彰するとともに、広く教育・芸術・文化を高め、併せて市民の生活文化の伝承を図る。		◆事業概要 貸館業務 施設の維持管理 大師講の集い			
◆評価指標及び実績					
利用者数	アウトプット				
評価指数(目標値)	実績	R1	R2	R3	R4
2,635人	利用者数	4,105人	1,523人	2,278人	2,134人
(過去3年間の平均)以上					
大師講の集い	例年実施				
	実績	R1	R2	R3	R4
参加団体	綴子 保育園		未実施	未実施	未実施
◆令和4年度の実施状況 令和4年度の利用者数は2,134人となり、前年度比6%減であった。また、「大師講の集い」は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し幼児の招待をやめ、渡辺喜恵子氏の作品について研さんする会にした。文化会館自主事業で行った「二戸歴史民俗資料館見学ツアー」には、風土記の会からの3名を含む19名が参加した。					
◆自己評価 感染症の収束傾向になり、少しずつ利用者数は増加に転じたが、令和4年度と流行前の令和元年度に比べると約52%となっている。文化会館の自主事業として「二戸歴史民俗資料館見学ツアー」を開催し、渡辺喜恵子氏の顕彰につながった。					
◆今後の方向性 平成元年11月の開館から33年経過し、経年劣化が見られることから、適正な維持管理を行う。また、多くの市民の学習や子どもたちとの交流の場として利用できるように努める。					
◆評価委員の意見 利用者数は減少しているが、作品に対する研さんする機会を逃さず実施できたことは今後につながる取りくみであると思われる。施設の経年劣化に適切に対応しながら利用促進を図っていただきたい。 建物の間取りや貸館について、もっと広報することによって、利用者の増加が期待できるのではないかと考える。					

32	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・	生涯学習課															
	目標	④ 心を豊かにする芸術文化の振興																
事業名	浜辺の歌音楽館運営事業		決算額 6,501 千円															
◆事業の目的		◆事業概要																
<p>浜辺の歌音楽館や成田為三を通じた各種事業を行うことにより、市民が芸術に親しむ機会を提供する。また、成田為三の顕彰と音楽館を拠点とした地域づくりを進め、愛着のある博物館を目指す。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・浜辺の歌音楽館少年少女合唱団育成事業 ・成田為三墓前演奏会 ・音楽館定期演奏会 ・愛着ある博物館事業 ・浜辺の歌音楽祭 																
◆評価指標及び実績																		
浜辺の歌音楽館少年少女合唱団育成事業		<p style="text-align: center;">例年実施</p> <p>少年少女合唱団の登録人数及び活動(イベント)数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団員数</td> <td>25人</td> <td>29人</td> <td>24人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>活動数</td> <td>9件</td> <td>10件</td> <td>9件</td> <td>8件</td> </tr> </tbody> </table>		実績	R1	R2	R3	R4	団員数	25人	29人	24人	24人	活動数	9件	10件	9件	8件
実績	R1	R2	R3	R4														
団員数	25人	29人	24人	24人														
活動数	9件	10件	9件	8件														
成田為三墓前演奏会		<p style="text-align: center;">例年実施</p> <p>墓前演奏会への参加団体数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加団体数</td> <td>4団体</td> <td>2団体</td> <td>2団体</td> <td>2団体</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>60人</td> <td>50人</td> <td>50人</td> <td>40人</td> </tr> </tbody> </table>		実績	R1	R2	R3	R4	参加団体数	4団体	2団体	2団体	2団体	参加者数	60人	50人	50人	40人
実績	R1	R2	R3	R4														
参加団体数	4団体	2団体	2団体	2団体														
参加者数	60人	50人	50人	40人														
音楽館定期演奏会		<p style="text-align: center;">アウトプット</p> <p>演奏会の回数と来場者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>1回</td> <td>未実施</td> <td>未実施</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>191人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table>		実績	R1	R2	R3	R4	回数	1回	未実施	未実施	1回	来場者数	191人	-	-	45人
実績	R1	R2	R3	R4														
回数	1回	未実施	未実施	1回														
来場者数	191人	-	-	45人														
<p>評価指数(目標値)</p> <p>1公演の来場者数180人 (音楽館座席可能数)</p>																		
愛着ある博物館事業		<p style="text-align: center;">アウトプット</p> <p>音楽館の利用団体数及び利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用団体数</td> <td>3団体</td> <td>5団体</td> <td>18団体</td> <td>8団体</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>93人</td> <td>139人</td> <td>249人</td> <td>222人</td> </tr> </tbody> </table>		実績	R1	R2	R3	R4	利用団体数	3団体	5団体	18団体	8団体	利用者数	93人	139人	249人	222人
実績	R1	R2	R3	R4														
利用団体数	3団体	5団体	18団体	8団体														
利用者数	93人	139人	249人	222人														
<p>評価指数(目標値)</p> <p>利用者数 160人 (過去3年間の平均)以上</p>																		
浜辺の歌音楽祭		<p style="text-align: center;">例年実施</p> <p>音楽祭への参加団体数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加数</td> <td>19団体</td> <td>未実施</td> <td>未実施</td> <td>16団体</td> </tr> </tbody> </table>		実績	R1	R2	R3	R4	参加数	19団体	未実施	未実施	16団体					
実績	R1	R2	R3	R4														
参加数	19団体	未実施	未実施	16団体														
◆令和4年度の実施状況																		
<p>浜辺の歌音楽祭少年少女合唱団育成事業では、感染症拡大防止対策により、新規団員の募集ができなかった。また、活動内容は制限されたものの、合唱団の定期・臨時演奏会に加え、オンラインでの参加、秋田芸術劇場ミルハス開館記念事業などの新規活動に取り組むことができた。</p> <p>成田為三墓前演奏会は、2団体含む40名が参加し成田為三を偲び歌い継ぐことが出来た。</p> <p>音楽館定期演奏会は、感染症拡大防止の状況を勘案しながらの開催となった。目標とした集客には届かなかったが、来場者には好評だった。</p> <p>愛着ある博物館事業では、各学校の総合学習をはじめ、コンサートやイベントなどにより、音楽を通して、成田為三作品や地域に誇りを持つことができた。</p> <p>浜辺の歌音楽祭では、十分な感染症拡大防止対策や時間短縮などの変更を加えたうえで、3年振りに開催することができた。</p>																		

◆自己評価

感染症対応により、予定事業を十分に実施することはできなかったが、そのような状況の中で、対応などを工夫して、学校、地域の方々や団体の協力を得て事業を実施できたことは大きな収穫であり、地域に愛される博物館に近づいてきた。

◆今後の方向性

各種事業を継続し、成田為三の顕彰と地域に愛される博物館づくりに取り組む。音楽館開館から30年以上経過し、館内映像・音響設備等が古く営業に支障をきたしているため早急に更新する必要があるため、計画的に設備の更新を図り、健全な運営に取り組みたい。また、収蔵資料の利活用についても積極的に取り組みたい。

◆評価委員の意見

感染症の影響を受ける中で新規活動にも取りくむなど、活動内容の工夫と多方面にわたる事業の開催には大きな意義があり、高く評価できる。今後も企画運営の一層の充実に努められたい。

合唱団の新規活動への取組は評価できる。音楽館の利活用をさらに進め、発信していくことを期待したい。

33	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・ 目標 ④ 心を豊かにする芸術文化の振興	生涯学習課															
事業名	文化祭開催事業	決算額 1,800 千円															
◆事業の目的 様々な芸術文化活動・公民館活動等を行う市民に、発表・鑑賞の場を提供する。各団体の活動の推進と交流を深めるとともに、広く市民の芸術文化活動の普及と参加意欲の高揚を図り、もって北秋田市の地域文化の発展に寄与することを目的とする。		◆事業概要 文化祭の開催															
◆評価指標及び実績 北秋田市文化祭 アウトプット 評価指数(目標値) 演示団体数 51団体 展示出品数 1,362点 (過去3年間の平均)以上																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実数</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>演示団体数</td> <td>51団体</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>41団体</td> </tr> <tr> <td>展示出展数</td> <td>1,184点</td> <td>1,408点</td> <td>1,495点</td> <td>846点</td> </tr> </tbody> </table>			実数	R1	R2	R3	R4	演示団体数	51団体	—	—	41団体	展示出展数	1,184点	1,408点	1,495点	846点
実数	R1	R2	R3	R4													
演示団体数	51団体	—	—	41団体													
展示出展数	1,184点	1,408点	1,495点	846点													
※R2R3年度はみんなの作品展出展数																	
◆令和4年度の実施状況 感染症拡大防止対策を十分に講じたうえで、関係各位の協力のもと、3年振りに市文化祭を開催した。演示部門・展示部門とも演示団体数、出展数は感染症流行前の数値を下回る状況となったが、久しぶりに芸術文化に触れ、笑顔が見受けられた市民の方々の表情が満足げに変わっていく印象を受けた。																	
◆自己評価 3年振りの市文化祭開催となり、出演者、出品者をはじめ来場者も、笑顔で話し込み情報交換する光景が見受けられた。また、感染症対策で心配は尽きない状況ではあったが、関係者の皆さまの協力のもとで盛会裏に終えることができた。																	
◆今後の方向性 市民へ芸術文化活動の発表及び鑑賞会の提供、芸術文化を体験できる機会の提供を継続的に行う。																	
◆評価委員の意見 演示・展示数の目標値に減少が見られるものの、感染症拡大が心配される中で、市文化祭を3年振りに開催し、盛会裏に終えることができたことは大きな成果であり高く評価できる。市民の心情の高まりを今後につなげられたい。 コロナ感染症対策を講じて3年振りに開催し、盛会裏に終えられたことは評価できる。																	

34	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・	生涯学習課										
	目標	⑤ 文化財保存・継承の推進											
事業名	文化財保護事業		決算額 3,403 千円										
◆事業の目的 文化財の適正な保護及び継承		◆事業概要 文化財保護審議会の開催、個人所有文化財の所在調査、市所有文化財の管理											
◆評価指標及び実績													
確認した指定文化財数		例年実施											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>22件</td> <td>43件</td> <td>12件</td> <td>42件</td> </tr> </tbody> </table>		実績	R1	R2	R3	R4	件数	22件	43件	12件	42件
実績	R1	R2	R3	R4									
件数	22件	43件	12件	42件									
◆令和4年度の実施状況 文化財保護審議会を3回開催し、1件を市指定文化財に認定した。市内文化財の確認、維持管理を行い適正な保護と継承が図られた。													
◆自己評価 文化財の指定については、文化財保護審議会の長年の調査により、1件を市文化財に認定することができた。また、未指定の文化財の調査を行い、地域において適正な保護を推進し見守っていくこととした。													
◆今後の方向性 指定文化財の所在確認を継続し、適正な保護、管理に努め、地域の宝として継承する。未登録文化財の調査の継続し、地域文化財として適正な保存に努める。													
◆評価委員の意見 文化財の指定は長年にわたる地道な調査・研究のもとに認定されるものであり、この度の指定は価値があり高く評価できる。文化財の適正な保護と調査の継続を図らるたい。 未登録文化財の調査を継続するとともに、既に認定された文化財を”地域の宝”として紹介する取組も期待したい。													

35	方針	ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・	生涯学習課
	目標	⑤ 文化財保存・継承の推進	
事業名	民俗芸能大会事業		決算額 724 千円
◆事業の目的		◆事業概要	
市内の民俗芸能等を広く市民に公開するとともに伝承者の意欲及び技術の向上を図る。また、民俗芸能等の現状を調査し、継承に努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・市民民俗芸能大会の開催 ・民俗芸能団体との意見交換会の開催 	
◆評価指標及び実績			
北秋田市民俗芸能大会		アウトプット	
評価指数(目標値)			
交流人数140人 (過去3年間の平均)以上			
	実績	R1	R2
	参加団体数	4団体	未実施
	交流人数	180人	-
		R3	R4
		5団体	4団体
		100人	200人
民俗芸能団体との意見交換	例年実施		
	実績	R1	R2
	開催回数	1回	2回
		-	1回
◆令和4年度の実施状況			
<p>第16回北秋田市民俗芸能大会には、市内から5団体、市外から1団体が出演予定でしたが、感染症の影響で、綴子大太鼓上町保存会、比立内比靖会、福田獅子舞保存会、上若郷土芸能保存会(藤里町)の4団体が出演。それぞれの地域で受け継がれてきた芸能を勇壮に披露した。また、郷土芸能の演技の映像を撮影記録を撮影し、市ホームページ内で鑑賞できるようにしている。</p> <p>民俗芸能団体との意見交換会では、市内民俗芸能団体と現状把握や今後の活動等について意見を集約した。</p>			
◆自己評価			
<p>感染防止対策を講じての大会開催となったが、昨年、一昨年は、ほとんどの地区で感染症流行のため、地元の奉納行事等が中止になっている状況の中で、久しぶりにお囃子や太鼓のリズムに合わせて、舞や踊りを披露する演者の姿に拍手が送られた。</p>			
◆今後の方向性			
<p>各保存会会員の高齢化や担い手不足により、民俗芸能大会に参加できる団体が限られてきている。地域や保存会、学校や青少年育成事業などと連携を図り、継承活動を強化して続けていくことで、大会を継続したい。</p>			
◆評価委員の意見			
<p>感染症の影響を受けながらも、市内外からの出演を得て、生の演技を公開することができたことは、伝承者の意識の高揚につながり評価できる。継承活動が難しい環境の中、事業の継続に鋭意努力されることをお願いしたい。民俗芸能の担い手が不足しているので、さらなる継承活動の強化に努めていきたい。</p>			

36	方針 ふるさとに学び文化をはぐくみ笑顔あふれるひと・まちづくり・・・文化・・・ 目標 ⑤ 文化財保存・継承の推進	生涯学習課															
事業名	方言保存継承事業	決算額 0 千円															
◆事業の目的 地域が持つ独自の風土や慣習を表現する一つの文化であり、地域で生活を営み、住んでいた証として引き継がれ残すべき文化である方言を記録し、保存していくことを目的とする。		◆事業概要 方言記録集作成 文字と音声による記録															
◆評価指標及び実績 方言記録集作成地区 ロードマップ <table border="1" data-bbox="678 667 1316 824" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="background-color: yellow;">R5</td> <td style="background-color: yellow;">R6</td> <td style="background-color: yellow;">R7</td> <td style="background-color: yellow;">R8</td> <td style="background-color: yellow;">R9</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> 方言保存継承事業計画 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: yellow;">地区の選定</td> <td style="background-color: yellow;">編纂委員会 設置</td> <td style="background-color: yellow;">資料収集</td> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">事業化</td> </tr> </table>			R5	R6	R7	R8	R9	方言保存継承事業計画					地区の選定	編纂委員会 設置	資料収集	事業化	
R5	R6	R7	R8	R9													
方言保存継承事業計画																	
地区の選定	編纂委員会 設置	資料収集	事業化														
◆令和4年度の実施状況 感染症対策のため、対象地区の選定ができなかった。																	
◆自己評価 なし。																	
◆今後の方向性 本事業は、市内の各地域に伝わる方言を記録・保存するため実施するものである。実施にあたっては、対象地域内で方言言葉の意味や由来、発音などを整理する必要があるため、地域内全体の協力体制が必須である。そのため、地域からの手上げ制を採用している。市広報で対象地域を募集(年1回)している。市からも方言に詳しい人材が地域内にいないか、自治会長等に聞き取りしながら対象地域に選定したい。																	
◆評価委員の意見 方言の記録・保存については、その機会を失ってしまうことが懸念される。大変難儀な作業であると推察されることから、事業計画に沿って地道に粘り強い対応をお願いしたい。 方言を残したいという高いモチベーションがないと難しい事業であるが、計画に則って進められるよう期待したい。																	

37	方針	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田					スポーツ振興課
	目標	① スポーツ環境の充実					
事業名	北秋田市民プール管理運営事業					決算額	17,900 千円
◆事業の目的 指定管理者制度の活用により、多様化する住民ニーズに効果的かつ効率的に対応するため、公の施設の管理に民間事業者等のノウハウ等を活用しつつ、住民サービスの向上と市民の健康維持増進を図る。			◆事業概要 【指定管理者】 有限会社シバタ 【指定管理期間】 令和2年4月1日～令和7年3月31日 令和元年度:18,900千円 令和2年度:17,900千円 令和3年度:17,900千円 令和4年度:17,900千円				
◆評価指標及び実績		例年実施					単位:人
幅広い年代の健康増進及び交流施設として指定管理者と連携し維持管理に努める。	実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	利用者数	55,887	56,098	58,799	54,619	54,676	47,259
	60歳以上	14,411	14,510	16,660	16,257	17,917	17,086
	一般	26,017	26,427	28,898	24,147	22,619	18,398
	高校生	2,878	2,515	1,779	1,294	1,309	1,113
	中学生以下	12,581	12,646	11,462	12,921	12,831	10,662
◆令和4年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症の影響により、小中、一般の利用者の減少がみられ、全体の利用者数の減となったが、関係機関との連携による高齢者向け教室等の展開により60歳以上の利用者は僅かな減となった。							
◆自己評価 本事業については、指定管理者制度を導入しているため評価指標は設定していない。 新型コロナウイルスの影響により、利用者数は減少したものの、スポーツ施設運営のノウハウを持つ指定管理者へ委託することで、子供から大人まで各種教室等の実施により、コロナ禍においてもスポーツ活動に親しむ機会と場の提供が図られた。							
◆今後の方向性 指定管理者と連携し、施設維持や住民サービスの向上を図るとともに、プール、トレーニングジム共に利用者の安全管理徹底を図る。							
◆評価委員の意見 利用者の減少傾向の中、関係機関との連携と安全管理に努めながら、住民のニーズに対応していることは評価できる。市民がスポーツに親しみ、健康増進を図る場の確保に向けて事業の継続実施を図られたい。 幅広い年代の市民が健康増進のため利用しており、適切な維持管理を期待したい。							

38	方針	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田					スポーツ振興課	
	目標	① スポーツ環境の充実						
事業名	薬師山スキー場管理運営事業					決算額	3,830 千円	
◆事業の目的 地域住民の能力を活用し本施設の効果及び効率を向上させ市民の健康と体力の増進を図る。			◆事業概要 【指定管理者】 今泉自治会 【指定管理期間】 令和2年4月1日～令和7年3月31日 令和元年度:3,293千円(雪不足のため余剰金返還) 令和2年度:3,830千円 令和3年度:3,830千円 令和4年度:3,830千円					
◆評価指標及び実績		例年実施					単位:人	
季節及び地域特有のスポーツ施設として継続するため指定管理者と連携し、経営維持に努める。		実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		利用者数	8,953	8,435	1,725	6,728	6,870	6,592
		1日平均利用者	118	126	86	106	102	100
◆令和4年度の実施状況 スキー人口の減少などから、利用者数の減少はみられるが、雪の状況もほぼ昨年同様となり、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら市民スキー大会を開催することができた。 利用者の内訳では、令和2年度から日中の利用者の減少(△577人)が顕著ですが、ナイター利用者は441人の増加を示した。								
◆自己評価 本事業については、指定管理者制度を導入しているため評価指標を設定していない。 指定管理者制度で地域自治会が運営することで、様々なサービスを提供することが可能となり、地域の協調性や連帯感で地域の活性化を図ることができた。								
◆今後の方向性 指定管理事業者及び関係機関との協議、連携を図り、施設利用者の増加及び施設維持に継続して努めると共に利用者の安全管理徹底を図る。								
◆評価委員の意見 スキー人口の減少やコロナ感染症が流行する中で例年とほぼ同じ利用者数が確保されている。また、市民スキー大会の実施やナイター利用者の増加など、その運営努力は高く評価できる。 近場で気軽にスキーを楽しめる貴重なスキー場であり、指定管理事業者等と連携して維持管理に努めるよう期待したい。								

39	方針	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田						スポーツ振興課
	目標	② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化						
事業名	北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業						決算額	0 千円
◆事業の目的 市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において合宿することを誘致促進を図る。			◆事業概要 市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において宿泊施設や内陸縦貫鉄道の利用に対し、合宿等を行った団体へ補助を行う。					
◆評価指標及び実績		アウトプット						
評価指標		実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
スポーツ・文化活動等に係る合宿誘致数		交付額	300千円	300千円	579千円	300千円	0千円	0千円
団体5件 延べ500人		延べ人数	216人	238人	315人	166人	0人	0人
第2次北秋田市総合計画(後期)と同様の数値目標		申請件数	1件	1件	2件	1件	0件	0件
◆令和4年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症の影響により、首都圏からの往来が困難なことから、例年当市で合宿を実施している大学が合宿を見合わせ、合宿誘致件数は0件となった。その他、問い合わせは1件(大学)								
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症の影響によって予定していた合宿が中止となった。コロナ禍においても、感染防止対策等の実施による受け入れ側の安全性をPRするなど、相手側との誘致に向けた取り組みが希薄であった。								
◆今後の方向性 地元住民との交流が図られ、地域活性化につながることから事業の継続に努める。本市のスポーツ施設、宿泊施設等を活かしたPR実施により、新たな合宿誘致を図る。								
◆評価委員の意見 やむを得ない状況から合宿の中止が続いているが、市民がトップアスリートとの交流から受ける影響には大きなものがあり、誘致に向けた取り組みの改善と継続を図りたい。コロナ禍によりここ2年間の利用はなかったが、積極的に誘致活動を行い、事業の継続に努めたい。								

40	方針	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田					スポーツ振興課	
	目標	② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化						
事業名	100キロチャレンジマラソン大会補助事業					決算額	3,000 千円	
◆事業の目的			◆事業概要					
北秋田市及び秋田内陸地域の情報発信と地域住民による大会運営へのボランティア参加等の支援活動を通じた地域活性化を図る。			大会運営のため補助金を交付し、円滑な大会運営と参加者の交流及び地域の活性化を図るための補助。 100キロチャレンジマラソン大会補助金 当初予算 3,000,000円					
◆評価指標及び実績		アウトプット					単位:人	
評価指標		実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
100キロの部 1,350名 50キロの部 350名 (定員1,700名)		参加者数	1,469	1,447	1,426	延期	延期	1,028
100キロチャレンジマラソン大会 実行員会が設定する最大参加者 数を評価指標とし設定した。		宿泊者数	841	1,042	1,014	延期	延期	715
◆令和4年度の実施状況								
令和4年9月25日(日)、3年振りの開催となる第30回記念大会は、全国から100キロの部 758人、50キロの部 270人、合計1,028人が参加し、スタッフや2千人を超えるボランティアが集まり、成功裏に終えた。 大会運営のための補助金を交付し、円滑な大会運営と参加者の交流及び地域の活性化を図るための補助を行った。								
◆自己評価								
大会実行委員会も含め、3年振りの大会開催であったことや、大会直前に豪雨による災害が発生し、コースの一部及び秋田内陸線の線路が被災するなどし、選手移送の手配・準備等の対応に苦慮したが適切な支援、補助の実施により円滑な大会運営への一助となった。								
◆今後の方向性								
円滑な大会運営に向けた運営費補助、物資・人的補助の実施。								
◆評価委員の意見								
3年振りの大会開催や豪雨による災害に対処しながら成功裏に大会を終えることができたことは高く評価できる。スタッフやボランティア等の大会関係者の尽力と適切な運営に敬意を表したい。 3年振りの開催の上に、災害等のトラブルがあったにもかかわらず、適切な支援により成功裏に終えられたことは大いに評価できる。								

41	方針	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田					スポーツ振興課
	目標	② 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化					
事業名	北秋田市スキー大会等補助事業					決算額	1,211 千円
◆事業の目的			◆事業概要				
北秋田市スキー大会実行委員会が実施するスキー大会及び県民歩くスキーのつどい開催のため補助金を交付し、事業の円滑な運営と雪国の特性を活かしたスポーツ活動の推進を図る。			<ul style="list-style-type: none"> ・第14回北秋田市民スキー大会兼第66回北秋田学童スキー大会 ・第40回県民歩くスキーのつどい 				
◆評価指標及び実績		アウトプット					
市民スキー大会		過去5年の平均値 49人					
参加者 60人	実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	交付額(円)	1,536,397	1,477,744	中止	866,766	57,215	930,727
	参加者数	122人	77人	0人	46人	0人	45人
県民歩くスキーのつどい		過去5年の平均値 96.6人					
参加者 200人	実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	交付額(円)	329,985	306,276	中止	中止	中止	279,458
	参加者数	235人	248人	0人	0人	0人	145人
<p>季節・地域特有の自然環境におけるスポーツに取り組むことで、地域への親しみと体力・精神力を育み将来的に競技者への足がかりとしてもらう。評価指標として前年度の参加者を上回る設定とした。</p>							
◆令和4年度の実施状況							
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により市民スキー大会、県民歩くスキーのつどい共に中止となっていたが、今年度は市内のコロナ感染者の状況等をみながら実施した。</p> <p>市民スキー大会では、アルペン、クロスカントリー競技だけでなく、冬期間に市民が外で楽しめる雪上イベントなどを企画した。</p> <p>県民歩くスキーのつどいでは市内外から、4歳から85歳までの参加者が北欧の杜公園の大自然の中、おもしろいにスキーを楽しんだ。</p>							
◆自己評価							
<p>市民スキー大会については少子化の影響を受け、年々選手の参加が減少しているが、市民の冬期間の運動不足解消と健康増進のため、一人でも多く市民に参加していただけるよう、レクリエーション要素を取り入れたイベント等の実施を図る。県民歩くスキーのつどいについては、県内各地から参加者が集うイベントとして、広く参加者へ周知を図る。</p>							
◆今後の方向性							
市民の冬期間の運動不足解消と健康維持のために、開催内容等を検討しながら継続開催に努める。							
◆評価委員の意見							
<p>競技だけでなく、実施内容を工夫したり、市内外から幅広く参加者を得ながら事業の開催にこぎつけたことは高く評価できる。雪国特有のスポーツの推進に向けて、継続実施を図りたい。</p> <p>参加者は減少傾向にあるものの雪国ならではのスポーツを、年令問わずに楽しめる工夫をして継続開催したい。</p>							

42	方針	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田					スポーツ振興課	
	目標	③ 競技スポーツの向上						
事業名	北秋田市スポーツ大会開催補助事業					決算額 130 千円		
◆事業の目的 市内で開催するスポーツ大会に要する経費に対して補助することにより、北秋田市におけるスポーツの振興、競技力の向上、地域の活性化を図る。			◆事業概要 市内で開催する大会運営経費の一部補助を行う。 ・小学生を対象とした県北、市内、郡市大会 1日 50,000円 2日以上 70,000円 ・全県規模の大会 1日 80,000円 2日以上 100,000円 ・東北大会以上 1日 100,000円 2日以上 150,000円					
◆評価指標及び実績		アウトプット						
申請件数 6件		過去5年の交付件数の平均値 4件						
競技大会を開催することにより、競技力の向上を図るため、過去5年の平均件数(4件)以上を評価指標とし以下のとおりに設定した。		実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		交付額(円)	438,000	438,000	438,000	80,000	50,000	130,000
		申請件数	6件	6件	6件	1件	1件	2件
◆令和4年度の実施状況 スポーツ振興や競技力の向上、地域活性のため、市内で開催されるスポーツ大会に要する経費の一部の補助を行った。 第9回大館北秋田学童相撲大会 50,000円 北秋田市剣道優勝大会 80,000円								
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症の影響からか、今年度も市内での大会開催が2件のみとなった。市内で大会を開催することで、地域における競技技術力の強化・向上を図ることができた。								
◆今後の方向性 コロナによる規制も緩和され、今後は、スポーツ協会加盟単位協会等へ補助事業の活用方法について周知を図り、事業の継続に努める。								
◆評価委員の意見 この3年間のコロナ感染症の影響から大会開催は少なくなっているが、市の競技力の向上や地域の活性化を図る上で効果が期待される。補助事業の継続を図られたい。 補助事業の活用方法についてさらに周知することにより、大会開催の増加が期待できる。								

43	方針	スポーツを通じて市民が健康で活力ある元気な北秋田					スポーツ振興課								
	目標	③ 競技スポーツの向上													
事業名	北秋田市スポーツ大会出場費補助事業					決算額	1,163 千円								
◆事業の目的 北秋田市在住の小・中学校児童生徒が全県大会規模以上の大会に出場することに要する経費について、市がその一部を補助し、児童生徒のスポーツ振興を図る。			◆事業概要 全県大会規模以上の大会出場する児童・生徒の団体・個人(学校部活動を除く)に対しての交通費・宿泊費・参加費等の経費の一部を補助を行う。												
◆評価指標及び実績		アウトプット													
申請件数 45件		過去5年の交付件数の平均値 27件													
大会出場経費に関する不安要素を軽減することで、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりを行うため、過去5年の最大件数であった平成29年度の43件以上を評価指標とし以下のとおり設定した。		実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4							
		交付額(円)	1,481,590	1,295,200	1,248,510	474,760	491,400	1,162,270							
		申請件数	43件	34件	34件	8件	14件	24件							
◆令和4年度の実施状況 全県大会規模以上の大会出場する児童・生徒の団体・個人(学校部活動を除く)に対しての交通費・宿泊費・参加費等の経費の一部を補助を行った。 令和4年度実績 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>・全国大会(8件)</td> <td>481千円</td> </tr> <tr> <td>・東北大会(4件)</td> <td>362千円</td> </tr> <tr> <td>・全県大会(12件)</td> <td>320千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,163千円</td> </tr> </table>								・全国大会(8件)	481千円	・東北大会(4件)	362千円	・全県大会(12件)	320千円	計	1,163千円
・全国大会(8件)	481千円														
・東北大会(4件)	362千円														
・全県大会(12件)	320千円														
計	1,163千円														
◆自己評価 コロナ禍においても、徐々に大会も再開されており、昨年と比較して10件増となっている。 選手・監督・コーチ等の大会参加経費の負担軽減を図ることで、各種大会への参加機会を増やす一助となった。															
◆今後の方向性 上位大会出場を目標としてスポーツ活動に取り組む、生徒、児童の目標達成のために有効な事業であることから今後も継続に務めることとするが、学校部活動地域移行の動向を踏まえた、事業の見直しが必要。															
◆評価委員の意見 児童生徒の出場する大会の件数が増えており、その活躍の状況が十分窺われることから評価できる。子どもたちの頑張りは、地域の活力にも寄与することから今後もスポーツ活動の環境づくりに努められたい。 学校部活動地域移行の動向を踏まえた見直しを行うとともにその内容を周知して事業の継続を図りたい。															

令和4年度

北秋田市教育委員会点検・評価報告書

発行	令和5年10月
発行責任者	北秋田市教育委員会総務課
所在地	北秋田市花園町15番1号 北秋田市役所第二庁舎
T E L	0186-62-6616
F A X	0186-63-2678